



阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

令和3年度 年次報告書



センター長ご挨拶



阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
センター長 河田 恵 昭

令和3年度は令和2年度に引き続き長引く新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえながら事業を展開した1年となりましたが、昨年11月には、平成14年4月の開館以来、のべ900万人の来館者数を達成しました。これまで当センターの活動を支えていただいた全国の皆さまに感謝を申し上げますとともに、これからも信頼される存在であり続けることができるよう、気持ちを引き締め、事業に邁進します。

まず、展示では、東館3階が昨年6月30日に体験型防災学習施設「BOSAIサイエンスフィールド」としてニューアルオープンしました。昨今、全国至る所で地震や集中豪雨による被害が頻発化しており、我が事として災害から身を守るための知恵や習慣の一層の普及・啓発が喫緊の課題です。今回のリニューアルでは、自然の脅威と地震・津波・噴火・風水害など自然災害が起きるメカニズムを理解し、災害時に適切に対処する能力を身に付けることを目指しました。さらに、1階こころのシアターの映像も、災害に遭遇した時の避難行動の大切さを訴えかける新映像に作り替えました。これにより、阪神・淡路大震災の脅威と教訓を伝える西館と、自然災害全般の体験型防災学習を担う東館を備えることとなり、災害ミュージアムとしての機能強化となりました。

防災担当職員対象の災害対策専門研修では、コロナ対応のためリモート活用を積極的に進めたところ、試行錯誤しながらも対面と遜色なく実施できるようになった上、遠方自治体の研修参加者が増加しました。また「夏休み防災未来学校」や地域防災訓練「ALL HAT」などの集客イベントは、会場とオンライン配信の併用によりメニューが増え参加層も広がるなど発信力が高まる効果がありました。

災害対応・現地支援では、本年3月福島県沖を震源とする地震が発生し宮城県・福島県で震度6強を観測しました。当センターからも即座に2班の先遣隊を派遣し各自治体の災害対応状況を確認・調査を行いました。

本年4月27日には、センター開設20周年を迎え、今年度はこれまでに蓄積した防災・減災に関する知識を国内外に広く発信する開設20周年記念事業を展開します。DRI防災連続セミナーの開催をはじめ、世界のあらゆる人に役立つ防災の知恵を普及・啓発する「ひょうご防災絵本100年計画（仮称）」に着手します。また、10月には内閣府等主催の防災推進国民大会（ぼうさいこくたい2022）が、当センターを中核として、このHAT神戸で開催されます。阪神・淡路大震災から復興を果たした兵庫からの大震災の経験と教訓を全国に発信してまいります。皆さまもどうぞ足をお運びください。

末筆ではございますが、これまでの関係者、関係機関の皆様のお力添えに心から感謝申し上げますとともに、今後の一層のご指導、ご支援を賜りますようお願いいたします。

人と防災未来センターのミッション

阪神・淡路大震災の経験を語り継ぎ、その教訓を未来に活かすことを通じて、災害文化の形成、地域防災力の向上、防災政策の開発支援を図り、安全・安心な市民協働・減災社会の実現に貢献する。

このため、震災の展示を通じて防災の重要性や共に生きることの大切さを広く市民に訴える。また、実践的な防災研究や防災を担う人材の育成、災害対応の現地支援、多様なネットワークを通じた連携などを、展示を含め一体のものとして推進し、知恵や情報の効果的な創出と体系化を進め、共有を促進する。

事業ごとのサブ・ミッション

展示

被災者・市民・ボランティアなど多くの人々の協力と連携のもと、阪神・淡路大震災の経験や教訓をわかりやすく展示し、世界の市民や未来を担う子ども達に広く効果的に情報発信することにより、市民・来館者一人ひとりが、防災の重要性やいのちの尊さ、共に生きることの大切さなどを真摯に受け止め、共に考え、学ぶことを促進する。

資料収集・保存

阪神・淡路大震災の記憶を風化させることなく、被災者の想いと震災の教訓を資産として共有し次世代へ継承するため、被災地において地域社会と関わりを保ちながら震災や防災に関する資料を継続的に収集・蓄積し、データベース化する。そして、防災情報を市民にわかりやすい形で整理し、発信する。

実践的な防災研究

阪神・淡路大震災の経験と教訓、学術的な知見や蓄積された研究成果に基づき、我が国の防災上の課題を的確にとらえ、政府・地方自治体・コミュニティ・企業などの防災政策や災害対策の立案・推進に資する実践的な防災研究を実施する。そして、知の新たな体系化と、その学術的価値の確立を先導する。

若手防災専門家の育成

阪神・淡路大震災の経験と教訓に精通し、実践的な防災研究を推進する高い能力を備え、社会の防災力向上に向けて常に思考し働きかけることのできる行動力や、災害の諸様相に関する確かな想像力を有し、将来それぞれの立場や観点で防災を牽引することが期待される若手防災専門家を育成する。

災害対応の現地支援

大規模災害時に、災害対応の実践的・体系的な知識を有する人材を災害対策本部等に派遣し、災害対応を統括する者に適切な情報提供や助言を行い、被災地の被害軽減と復旧・復興に貢献する。また、所要の知見の蓄積・体系化や派遣体制の整備、本活動の浸透に向けた社会的な環境の醸成に努める。



災害対策専門職員の育成

阪神・淡路大震災の経験を具体的に伝えとともに、最新の研究成果を踏まえ、防災に関する実践的知識や技術を体系的・総合的に提供することにより、地方自治体の防災担当職員など災害対策実務の中核を担う人材を育成する。そして、これを通じて関係各組織の災害対応能力の向上に貢献する。

交流ネットワーク

阪神・淡路大震災や防災に関わる行政実務者・研究者・市民・企業など多様なネットワークの交差点となり、様々な知恵や人材の出会いと、国内外の連携の場となることを通じて、社会の防災力向上のための取り組みを促進する。

令和3年度を振り返って

1 展示

センター開設以降の利用者は、令和3年11月に延べ900万人を超えたが、令和3年度の利用者数は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大のため、教育旅行等国内団体客数や外国人観光客数が伸びず、前年度よりは上向いたものの、コロナ禍前の毎年約50万人の3割以下となった。

館内の感染症対策は、入館時の検温や手指消毒、マスク着用の徹底を図るとともに、シアター定員の縮小や消毒・換気時間確保のための上映回数の制限などに加えて、新たに光触媒コーティングを館内で実施するなど、県からの要請や兵庫県内における感染状況を踏まえた対策を実施した。

また、6月30日に「BOSAIサイエンスフィールド」を東館3階にオープンし、幅広い世代の来観者に対し、巨大地震や風水害等に備える力や最新の防災知識の効果的な学びを提供した。アンケート調査では「防災学習のための色々な工夫が見て取れた。」「自分の身に体験出来る事が多く非常に良かった。」との声を聞くなど好評となっている。

例年実施している「夏休み防災未来学校」や「HAT減災サマーフェス」「ALL HAT防災訓練」などの企画は、オンラインだけでなくリアル会場のプログラムも人数制限を行いながら実施し、安全安心で元気なまちづくりに貢献することができた。

さらに、企画展では、「祝オリックス・バファローズ パ・リーグ制覇記念特別展示」を開催し、阪神・淡路大震災が発生した平成7年に優勝したオリックス・ブルーウェーブの「がんばろう KOBE」と書かれたワッペン付ユニフォームや優勝記念品を展示して好評を博した。

コロナ禍ではあったが、運営ボランティア139名の活動もあり、来場者アンケートでは、9割以上の方からご満足いただいたとの評価を得ることができた。

2 資料収集・保存

震災資料の収集・整理及び閲覧、貸出など資料の公開を引き続き行うとともに、資料の適切な保存環境を維持するため、収蔵庫スペースの環境調査と殺虫処理を継続した。

西館3階のスポット展示「震災資料のメッセージ」では、前期・後期に分けて展示を行った。前期は「阪神淡路大震災1.17のつどい～人々の希望を照らす灯火～」と題し、令和3年度にNPO法人阪神淡路大震災1.17希望の灯りから寄贈された紙灯笼とともに、コロナ禍で実施された追悼行事に対する人々の思いや、発生から10年を迎えた東日本大震災の被災地との交流についても紹介するパネルを展示した。後期は「『働く場』が『復興の地』へ一振り返る HAT 神戸」と題し、戦後の神戸の街を描き続けてきた宇佐美重氏の水彩画で、センターが立地する HAT 神戸地区の歴史を振り返る展示を行った。

夏休み防災未来学校では、新しい企画として資料室が作成した非常持ち出し袋ゲーム「BOB for ○○」と、ギャラリートーク&ハンズオン「震災資料ってなんだろう？」を実施した。非常持ち出し袋ゲーム「BOB for ○○」で作る非常持ち出し袋は、自分ではない「誰か」が使うことを想定したものであり、多様化する社会を意識した防災について学ぶゲームとなっている。ギャラリートーク&ハンズオン「震災資料ってなんだろう？」は、資料専門員による常設展示品の詳しい解説や震災資料を直接さわることにより、モノが持つ多面的

な情報から震災の教訓や防災・減災について学んで貰うことを主題としている。

また、震災資料の利活用を推進するため、資料室において、企画展「ひとぼうのたからもの」を開催した。人と防災未来センターが令和4年4月に開館20年を迎えることを踏まえ、「後世に残して行かねばならない私たちの財産」である震災資料の収集と保存、センター開館までの歩みをパネルと資料を用いて紹介する展示を行った。

これらに加えて、令和3年10月から国立国会図書館「東日本大震災資料アーカイブ」（愛称：ひなぎく）とのデータ連携を開始した。これにより、当センター所蔵の阪神・淡路大震災等に係る資料を「ひなぎく」でも検索することが可能となった。

今年度は、「コロナ禍」の影響を受けつつも、昨年度の経験を活かし実施可能なイベントや視察を模索しながら活動した1年であった。

3 実践的な防災研究と若手防災専門家の育成及び災害対応の現地支援・現地調査

研究部では、研究活動のガイドラインに基づき、各研究員の調査研究活動、重点研究領域に関する中核的研究プロジェクト、5つの特定研究プロジェクト等をはじめとした実践的な防災研究を推進した。研究成果は、DRI調査研究レポートとして研究者のみならず、政府・自治体の防災・減災担当者やマスコミ関係者等多くの人々と共有した。

全研究員で、「巨大災害の縮災実現に向けた体制の創出手法」をテーマとする中核的研究プロジェクト（平成30年度～令和4年度）に取り組んだ。本研究では、南海トラフ巨大地震などを踏まえ、縮災（被害の極小化と早期の回復）を可能とする自治体の防災体制や、体制手法を明らかにすることとしている。つまり、巨大災害特有の外部応援が見込めない状況下で、平常時の「普遍化」「越境」など、どのような要素が災害対応において有効であるか検証し、その要素を自治体が導入・維持・向上する方策を検討し、これを普及していくことを目指す。

令和3年度は、5カ年の4カ年目であり、優良事例収集のため自治体ヒアリング調査と研修開発を行った。

具体的には、本研究プロジェクトで実施した質問紙調査の結果、「普遍化」と「越境」の得点が高い8自治体のヒアリング調査を実施した結果をもとに研修講義資料の作成につなげた。また、「越境」の重要性を認識できるワークショップを新たに開発し、フォローアップセミナーで試験実施することができた。

令和3年度の研究業績は著書数（4件）、査読論文数（12件）、一般論文数（25件）、口頭発表数（35件）であった。なお、本年度末をもって、1名の主任研究員（楊梓）が、当センターを巣立ち、新たな歩みを始めることとなっており、研究員等OBは、令和4年度当初の時点で、国公立大学に19名、私立大学に12名、行政機関・研究機関等に35名の計66名が在席し活躍している。

災害対応の現地支援・現地調査では、「令和3年8月の大雨」に際しては、新型コロナウイルス感染症蔓延の中、被災地も広範囲にわたる状況を踏まえ、災害救助法適用地域等39自治体向けに、メール等での自治体職員支援を行う「災害対応ワンストップ窓口」を設置した。

また、令和4年3月の「令和4年福島県沖を震源とする地震」に際しては、2隊に分けて先遣隊を派遣し、現地調査、ワンストップ窓口の案内を行った。災害対応の実情を把握するとともに、関係団体等とも情報共有を行った。先遣隊の活動報告は速報として「DRI調査レポート No.51」にとりまとめた。

4 災害対策専門職員の育成

自治体の首長等を対象とした「トップフォーラム」については、三重県、群馬県及び鹿児島県の3県と共催してオンラインにより開催した。

また、自治体の防災担当職員を対象とした「マネジメントコース」では、近畿地方、中部地方を中心に全国各地から参加があった。受講者からは、「災害対策に関する基礎的な部分を幅広く学ぶことができた。」「新たな目線での考え方なども学ぶことができた。」「行政の実例を多く紹介いただき、今後の業務を進める上でのヒントをもらった。」「皆同じようなところに課題を感じていることが分かり、解決方法を今後一緒に考えて行けたらと思った。」「過去の事例を教えていただいたことで、災害のイメージを膨らませることができた。」「災害対応を概念や取組みの実態を知り、最終的にワークショップなどで考えるという流れなので、教わったことがしっかり理解に繋がった。」等の評価を得た。

さらに、テーマ・目的を絞った特設コースとして、「減災報道研究会」等を開催した。

このほか、内閣府から（株）サイエンスクラフトと共同受託している「防災スペシャリスト養成研修」については、全10コースの研修を年2回リモートで、また、地域研修を全国7県（青森、福島、奈良、岡山、鳥取、香川、宮崎）において主にリモートで開催した。さらに、前年の研修修了者を対象にフォローアップ研修をリモートで開催し、被災地の事例を学んだ。

5 交流ネットワーク

学生の防災・減災活動を通じて、災害教訓を「活かす」ことができる人材を育成するとともに、防災の取組みをいろいろな地域・世代へ広げていく事例をまとめ、今後の被害を減らすことに寄与することを目的として、「災害メモリアルアクション KOBÉ2022」を実施した。

また、学校や地域で取り組んでいる防災教育・活動を顕彰する1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」（兵庫県・毎日新聞社と共催）には、全国から110件の応募があった。1月9日に兵庫県公館で表彰式を開催したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況に鑑み、オンラインでの開催とし、例年同日に開催している発表会については中止した。なお、上位受賞校・団体の活動内容の紹介等を記録誌にまとめ発行した。



人と防災未来センター令和3年度年次報告書 目次

センター長ご挨拶

人と防災未来センターのミッション、事業ごとのサブミッション

令和3年度を振り返って

I 章 展示

1 節	利用者の動向	2
2 節	常設展示の概要	23
3 節	企画展の概要	34
4 節	運営ボランティアの活動等	45
5 節	VIP 等の視察対応	48

II 章 資料収集・保存

1 節	資料収集と整理	50
2 節	資料室における相談業務・情報発信	53
3 節	震災資料の活用	56
4 節	資料を通じた交流・ネットワーク	59

III 章 実践的な防災研究と若手防災専門家の育成及び災害対応の現地支援・現地調査

1 節	実践的な防災研究と若手防災専門家育成の考え方について	62
2 節	研究員の取組	64
3 節	中核的研究プロジェクト及び特定研究プロジェクトの推進について	111
4 節	研究員等の多彩な活動	123
5 節	特別研究調査員の取組	125
6 節	令和3年度の災害対応の現地支援・現地調査の仕組み	127
7 節	災害対応の現地支援・現地調査	128
8 節	研究成果の発信	130

IV 章 災害対策専門職員の育成

1 節	災害対策専門研修	134
2 節	フォローアップセミナー	143
3 節	防災スペシャリスト養成研修	144

V 章 交流・ネットワーク

1 節 国際防災・人道支援協議会の活動	150
2 節 友の会	153
3 節 情報発信	155

VI 章 新型コロナウイルス感染症拡大期に対応した取り組み

1 節 新型コロナウイルス感染症拡大期に対応した取り組み	166
------------------------------	-----

VII 章 事業評価委員会

1 節 事業評価委員会	170
-------------	-----

参考資料

資料 1 整備の趣旨・目的	172
資料 2 施設概要	174
資料 3 沿革	175
資料 4 組織	178
資料 5 令和 3 年度人と防災未来センター特別会計収支予算書	179
資料 6 資料室のあらまし	180
(1) 資料室の概要	
(2) 震災資料の収集・保存事業の経緯	
(3) 資料室受け入れ資料点数等	
(4) 震災資料収集・公開の流れと公開形態別資料点数	
資料 7 新聞記事がとりあげた人と防災未来センター	187
資料 8 研修カリキュラム表	188
(1) 災害対策専門研修トップフォーラムの過去の開催状況一覧	
(2) 令和 3 年度春期 災害対策専門研修	
(3) 令和 3 年度秋期 災害対策専門研修	
(4) 令和 3 年度 フォローアップセミナー	
(5) 令和 3 年度 防災スペシャリスト養成研修	
資料 9 センター刊行物	210

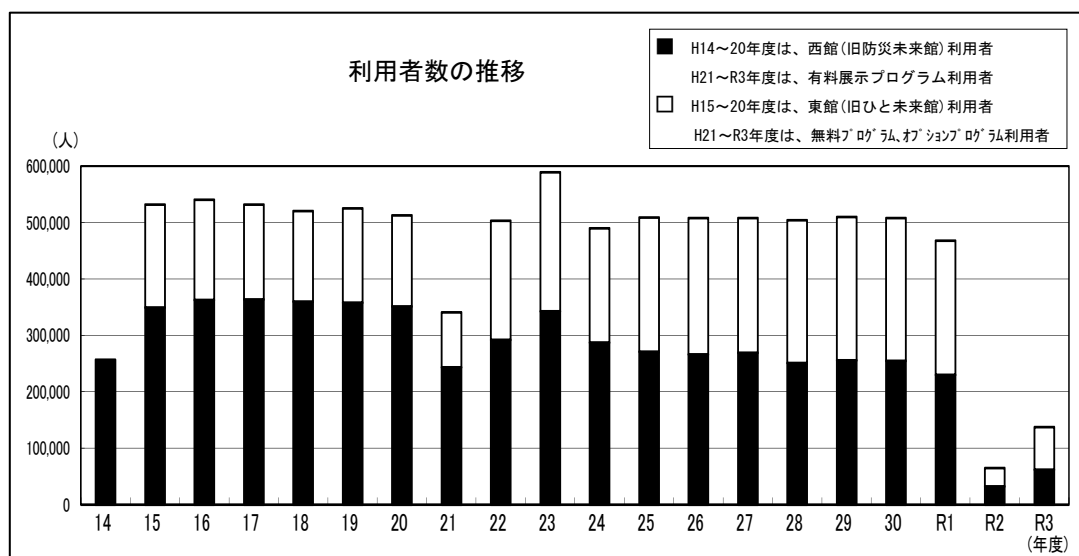
I 章 展示

- 1 利用者の動向
- 2 常設展示の概要
- 3 企画展の概要
- 4 運営ボランティアの活動等
- 5 VIP 等の視察対応

I 章 展示

1 節 利用者の動向

1 利用者数



〔平成 14 ～ 20 年度〕

区 分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	小計(H14-20)
利用者数(人)	256,789	532,173	540,622	531,485	520,016	525,624	513,092	3,419,801
西館(旧防災未来館)	256,789	349,584	362,409	363,516	359,571	358,163	351,263	2,401,295
東館(旧ひと未来館)	—	182,589	178,213	167,969	160,445	167,461	161,829	1,018,506
1 日平均利用者数(人)	870	1,700	1,733	1,703	1,646	1,679	1,639	1,573
西館(旧防災未来館)	870	1,117	1,162	1,165	1,138	1,144	1,122	1,105
東館(旧ひと未来館)	—	583	571	538	508	535	517	468
営業日数(日)	295	313	312	312	316	313	313	2,174

〔平成 21 ～ 令和 3 年度〕

区 分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
利用者数(人)	341,010	502,865	588,731	490,131	509,206	507,714	507,986	504,410
有料展示プログラム	243,134	292,092	342,507	286,915	271,426	265,999	269,057	250,712
無料・オプションプログラム	97,876	210,773	246,224	203,216	237,780	241,715	238,929	253,698
1 日平均利用者数(人)	1,111	1,612	1,881	1,566	1,637	1,627	1,628	1,622
有料展示プログラム	792	936	1,094	917	873	853	862	806
無料・オプションプログラム	319	676	787	649	765	775	766	816
営業日数(日)	307	312	313	313	311	312	312	311

区 分	29年度	30年度	R1年度	R2年度	R3年度	小計(H21-R3)	累計(H14-R3)
利用者数(人)	509,820	507,595	468,282	64,517	137,618	5,639,885	9,059,686
有料展示プログラム	256,239	255,202	230,452	32,578	61,891	3,058,204	—
無料・オプションプログラム	253,581	252,393	237,830	31,939	75,727	2,581,681	—
1 日平均利用者数(人)	1,639	1,627	1,626	251	471	1,427	平均 1,479
有料展示プログラム	824	818	800	127	212	—	—
無料・オプションプログラム	815	809	826	124	259	—	—
営業日数(日)	311	312	288	257	292	3,951	6,125

「利用者数」

※平成14年度の利用者数は防災未来館のみの利用者数。

平成14年4月27日 西館(旧防災未来館)オープン

平成15年4月26日 東館(旧ひと未来館)オープン(グランドオープン)

※平成15～20年度の利用者数は、西館(旧防災未来館)、東館(旧ひと未来館)それぞれの利用者数の合計数。

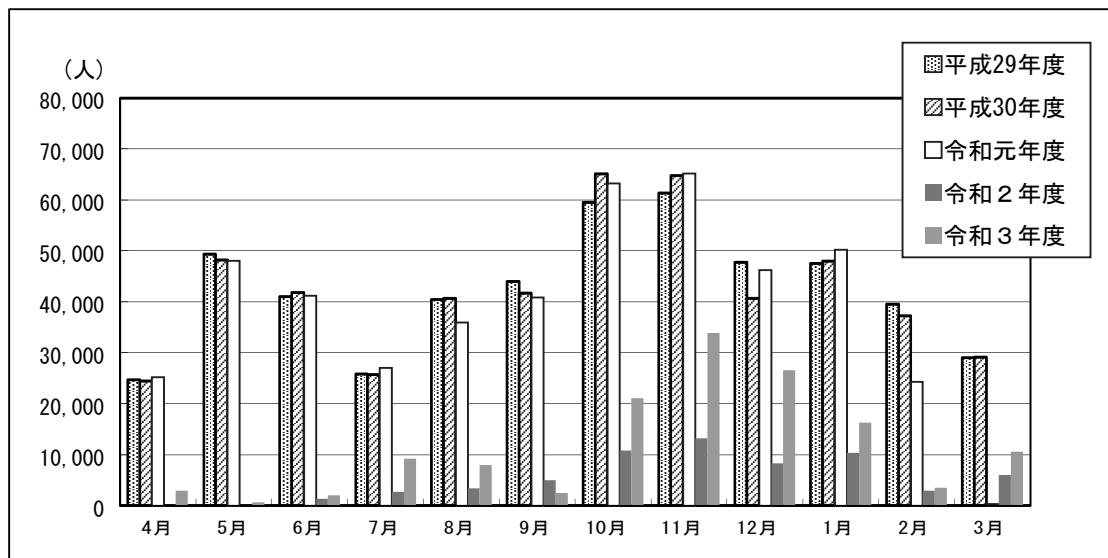
※平成21年度以降の利用者数は、有料展示プログラム利用者数に加え、資料室利用や各種の研修・ワークショップ・セミナー・イベント参加等の無料プログラムの利用者数及びこころのシアター利用等のオプションプログラムの利用者数の合計数。

(料金体系の変更、無料プログラムの増大等に伴い、利用者数算定の方法を、館区分別から有料・無料等プログラム区分別に変更。)

- ・平成21年度の利用者数が大幅に少ないのは、新型インフルエンザの兵庫県内発生による予約キャンセルや、その後の全国的なまん延による出控え、旅行自粛等の影響と考えられる。
- ・平成23年度の利用者数が増加しているのは、東日本大震災（H23.3.11）を機に、防災に対する関心が高まったこと、特に中部圏の学校等の団体が、震災等の影響で旅行先を関東から関西方面に変更したこと等によるものと考えられる。
- ・令和元年度は、世界的な新型コロナウイルス感染症の影響で1月から団体予約のキャンセルが発生し、3月3日午後から臨時休館を行ったため（臨時休館は翌年5月末まで継続）、前年度に比べ、利用者数（無料のイベント参加等を含む）は92.3%、有料展示プログラムについては90.3%に留まった。
- ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大や4月～5月、令和3年1月～2月の二度の緊急事態宣言の発出等を受けて臨時休館やシアターでの入場制限を実施せざるを得ず、また、国内外での移動・旅行自粛や規制等が長く続き、団体予約のキャンセルも相次ぐなど来館者が激減した。
- ・令和3年度の利用者数（無料のイベント参加等を含む）は137,618人（うち有料展示プログラム61,891人）で、前年同期に比べ213.3%（有料展示プログラムについて190.0%）となっている。
- ・なお、令和3年度は前年比較では増加しているが、新型コロナウイルス感染症の拡大による臨時休館（4月25日～5月11日）や団体予約のキャンセル等に加えて、大規模修繕による臨時休館（2月12日、13日、19日、20日）もあり、コロナ禍前と比べ引き続き低調な利用者数となっている。

2 利用者の月別状況

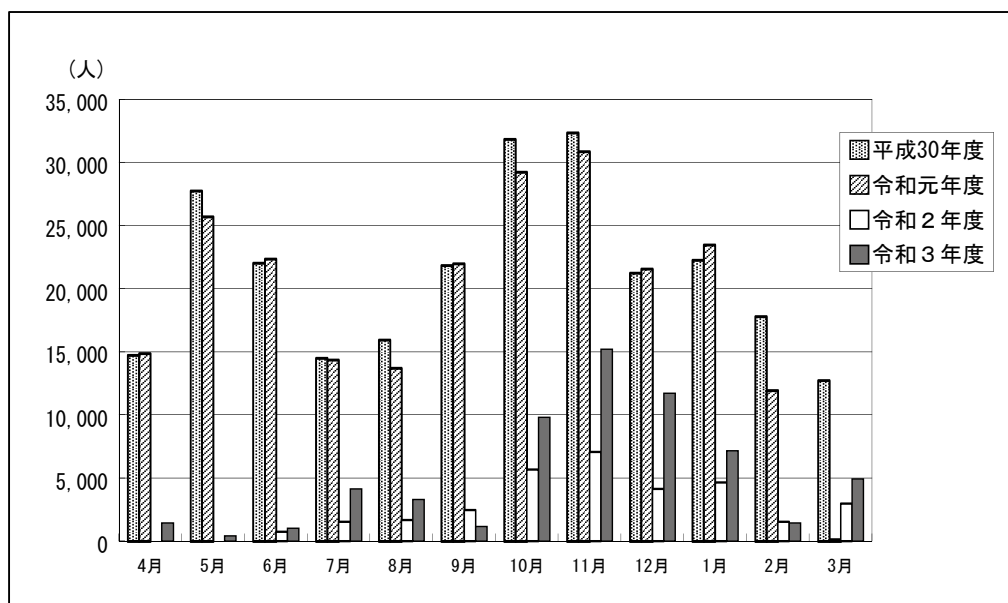
(1) 利用者全体



(単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成14年度	4,512	27,626	25,056	19,762	18,435	23,141	37,616	36,244	13,238	16,952	18,380	15,827	256,789
平成15年度	19,690	56,046	49,018	42,526	39,324	40,887	75,822	70,871	28,463	33,412	37,907	38,207	532,173
平成16年度	30,251	60,068	43,598	34,698	38,540	36,154	67,234	67,857	32,749	45,242	42,610	41,621	540,622
平成17年度	32,301	58,348	46,947	35,495	34,731	45,972	71,306	72,367	29,237	32,430	37,505	34,846	531,485
平成18年度	31,175	57,664	42,676	32,524	35,361	43,656	72,918	75,236	28,027	34,605	34,715	31,459	520,016
平成19年度	28,983	62,099	43,890	27,626	35,943	42,644	75,466	76,403	30,189	39,949	35,461	26,971	525,624
平成20年度	27,656	60,722	45,097	29,446	33,088	39,862	79,334	70,953	29,024	38,846	33,548	25,516	513,092
平成21年度	22,627	20,918	11,928	21,257	19,932	31,053	49,590	39,338	29,685	41,611	31,100	21,971	341,010
平成22年度	28,198	53,336	45,600	31,448	35,405	40,120	62,536	59,809	41,134	37,676	39,310	28,293	502,865
平成23年度	24,893	68,035	78,503	41,048	39,611	53,558	70,397	71,320	39,811	34,856	34,648	32,051	588,731
平成24年度	25,824	57,044	41,098	27,001	32,405	42,609	58,966	57,252	40,052	40,027	37,113	30,740	490,131
平成25年度	23,844	59,377	36,902	25,139	33,822	40,318	59,530	73,484	44,648	49,463	36,867	25,812	509,206
平成26年度	25,286	59,934	34,757	25,387	33,243	42,283	61,806	53,104	35,871	59,590	42,335	34,118	507,714
平成27年度	25,091	53,612	43,749	30,381	34,693	40,482	63,905	57,882	43,190	53,164	37,222	24,615	507,986
平成28年度	25,577	47,552	38,481	30,454	37,918	40,699	61,686	62,086	39,633	49,861	41,748	28,715	504,410
平成29年度	24,721	49,303	40,998	25,805	40,410	43,940	59,519	61,307	47,713	47,497	39,569	29,038	509,820
平成30年度	24,505	48,244	41,827	25,669	40,713	41,720	65,069	64,750	40,680	48,018	37,259	29,141	507,595
令和元年度	25,286	48,141	41,260	27,033	35,959	40,924	63,232	65,246	46,271	50,287	24,332	311	468,282
令和2年度	0	0	1,371	2,769	3,439	5,017	10,873	13,274	8,352	10,397	3,010	6,015	64,517
令和3年度	2,988	736	2,050	9,207	7,964	2,505	21,139	33,958	26,579	16,318	3,496	10,678	137,618
合計	453,408	948,805	754,806	544,675	630,936	737,544	1,187,944	1,182,741	674,546	780,201	648,135	515,945	9,059,686

(2) 有料展示プログラム利用者のみ



(単位：人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成30年度	14,733	27,778	22,061	14,504	15,963	21,872	31,856	32,371	21,245	22,261	17,820	12,738	255,202
令和元年度	14,887	25,739	22,390	14,389	13,735	22,001	29,242	30,912	21,565	23,505	11,959	128	230,452
令和2年度	0	0	758	1,522	1,702	2,487	5,668	7,103	4,131	4,661	1,546	3,000	32,578
令和3年度	1,442	405	1,025	4,135	3,335	1,167	9,818	15,207	11,753	7,190	1,458	4,956	61,891

・令和2、3年度はコロナウイルス感染症拡大のため、例年との比較ができない。

3 観覧者（有料展示プログラム利用者）の区分別状況

「観覧者」

※利用者のうち有料展示プログラム利用者を指す。（発券記録等に基づいて「団体予約」・「個人」の2区分ごと、また「大人」・「高校・大学生」・「小・中学生等」の3区分ごとに集計。）

(上段：人数)

(下段：構成比率)

区分	団体予約											
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
大人	—	200,525 37.7%	192,071 35.5%	183,423 34.5%	160,634 30.9%	134,627 25.6%	94,263 18.4%	45,846 18.9%	63,106 21.6%	61,080 17.8%	78,645 27.4%	70,932 26.1%
高校・大学生	—	29,178 5.5%	31,365 5.8%	38,365 7.2%	37,287 7.2%	42,206 8.0%	37,584 7.3%	24,668 10.1%	18,514 6.3%	30,343 8.9%	24,993 8.7%	25,173 9.3%
小・中学生等	—	87,054 16.4%	110,397 20.4%	113,779 21.4%	118,431 22.8%	105,972 20.2%	115,542 22.5%	57,633 23.7%	66,895 22.9%	149,687 43.7%	100,246 34.9%	95,308 35.1%
計	147,515 57.4%	316,757 59.5%	333,833 61.7%	335,567 63.1%	316,352 60.8%	282,805 53.8%	247,389 48.2%	128,147 52.7%	148,515 50.8%	241,110 70.4%	203,884 71.1%	191,413 70.5%

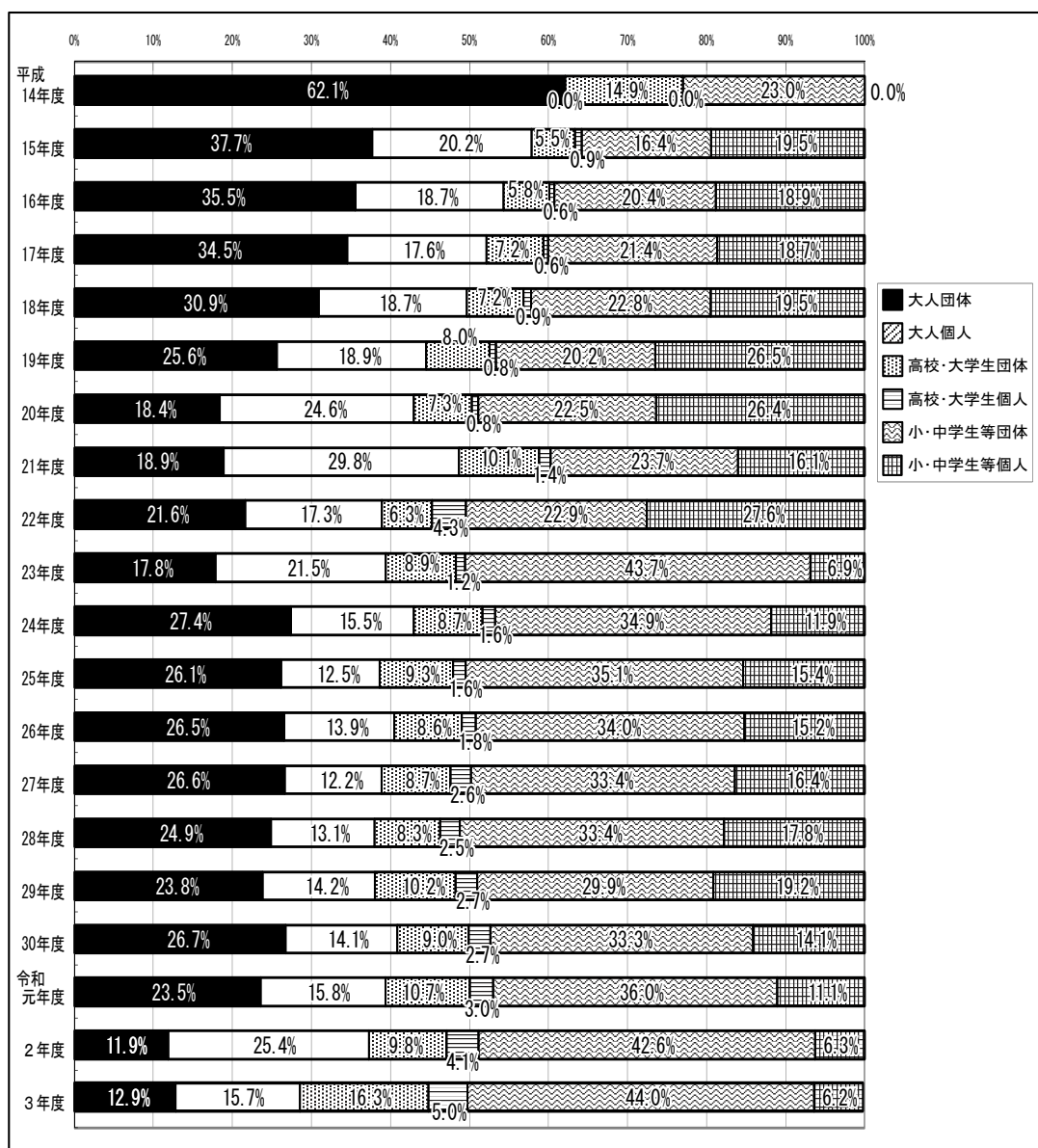
区 分	団体予約							
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
大 人	70,514 26.5%	71,566 26.6%	62,321 24.9%	60,980 23.8%	68,125 26.7%	54,233 23.5%	3,867 11.9%	7,966 12.9%
高校・ 大学生	22,749 8.6%	23,526 8.7%	20,896 8.3%	26,227 10.2%	23,070 9.0%	24,598 10.7%	3,204 9.8%	10,093 16.3%
小・中学生 等	90,464 34.0%	89,890 33.4%	83,362 33.3%	76,593 29.9%	84,862 33.3%	82,905 36.0%	13,871 42.6%	27,208 44.0%
計	183,727 69.1%	184,982 68.8%	166,579 66.4%	163,800 63.9%	176,057 69.0%	161,736 70.2%	20,942 64.3%	45,267 73.1%

区 分	個人											
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
大 人	－ 20.2%	107,283 20.2%	101,311 18.7%	93,517 17.6%	97,494 18.7%	99,162 18.9%	126,037 24.6%	72,437 29.8%	50,493 17.3%	73,769 21.5%	44,495 15.5%	33,850 12.5%
高校・ 大学生	－ 0.9%	4,589 0.9%	3,467 0.6%	3,161 0.6%	4,855 0.9%	4,307 0.8%	4,175 0.8%	3,514 1.4%	12,511 4.3%	4,054 1.2%	4,510 1.6%	4,361 1.6%
小・中学生 等	－ 19.5%	103,544 19.5%	102,011 18.9%	99,240 18.7%	101,315 19.5%	139,350 26.5%	135,491 26.4%	39,036 16.1%	80,573 27.6%	23,574 6.9%	34,026 11.9%	41,802 15.4%
計	109,274 42.6%	215,416 40.5%	206,789 38.3%	195,918 36.9%	203,664 39.2%	242,819 46.2%	265,703 51.8%	114,987 47.3%	143,577 49.2%	101,397 29.6%	83,031 28.9%	80,013 29.5%

区 分	個人							
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
大 人	37,006 13.9%	32,948 12.2%	32,791 13.1%	36,343 14.2%	36,075 14.1%	36,403 15.8%	8,260 25.4%	9,726 15.7%
高校・ 大学生	4,769 1.8%	6,897 2.6%	6,195 2.5%	6,948 2.7%	6,961 2.7%	6,812 3.0%	1,328 4.1%	3,067 5.0%
小・中学生 等	40,497 15.2%	44,230 16.4%	45,147 18.0%	49,148 19.2%	36,109 14.1%	25,501 11.1%	2,048 6.3%	3,831 6.2%
計	82,272 30.9%	84,075 31.2%	84,133 33.6%	92,439 36.1%	79,145 31.0%	68,716 29.8%	11,636 35.7%	16,624 26.9%

区 分	合計											
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
大 人	－ 57.8%	307,808 57.8%	293,382 54.3%	276,940 52.1%	258,128 49.6%	233,789 44.5%	220,300 42.9%	118,283 48.6%	113,599 38.9%	134,849 39.4%	123,140 42.9%	104,782 38.6%
高校・ 大学生	－ 6.3%	33,767 6.3%	34,832 6.4%	41,526 7.8%	42,142 8.1%	46,513 8.8%	41,759 8.1%	28,182 11.6%	31,025 10.6%	34,397 10.0%	29,503 10.3%	29,534 10.9%
小・中学生 等	－ 35.8%	190,598 35.8%	212,408 39.3%	213,019 40.1%	219,746 42.3%	245,322 46.7%	251,033 48.9%	96,669 39.8%	147,468 50.5%	173,261 50.6%	134,272 46.8%	137,110 50.5%
計	256,789 100.0%	532,173 100.0%	540,622 100.0%	531,485 100.0%	520,016 100.0%	525,624 100.0%	513,092 100.0%	243,134 100.0%	292,092 100.0%	342,507 100.0%	286,915 100.0%	271,426 100.0%

区 分	合計							
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
大 人	107,520 40.4%	104,514 38.8%	95,112 37.9%	97,323 38.0%	104,200 40.8%	90,636 39.3%	12,127 37.2%	17,692 28.6%
高校・ 大学生	27,518 10.4%	30,423 11.3%	27,091 10.8%	33,175 12.9%	30,031 11.8%	31,410 13.6%	4,532 13.9%	13,160 21.3%
小・中学生 等	130,961 49.2%	134,120 49.8%	128,509 51.3%	125,741 49.1%	120,971 47.4%	108,406 47.0%	15,919 48.9%	31,039 50.2%
計	265,999 100.0%	269,057 100.0%	250,712 100.0%	256,239 100.0%	255,202 100.0%	230,452 100.0%	32,578 100.0%	61,891 100.0%



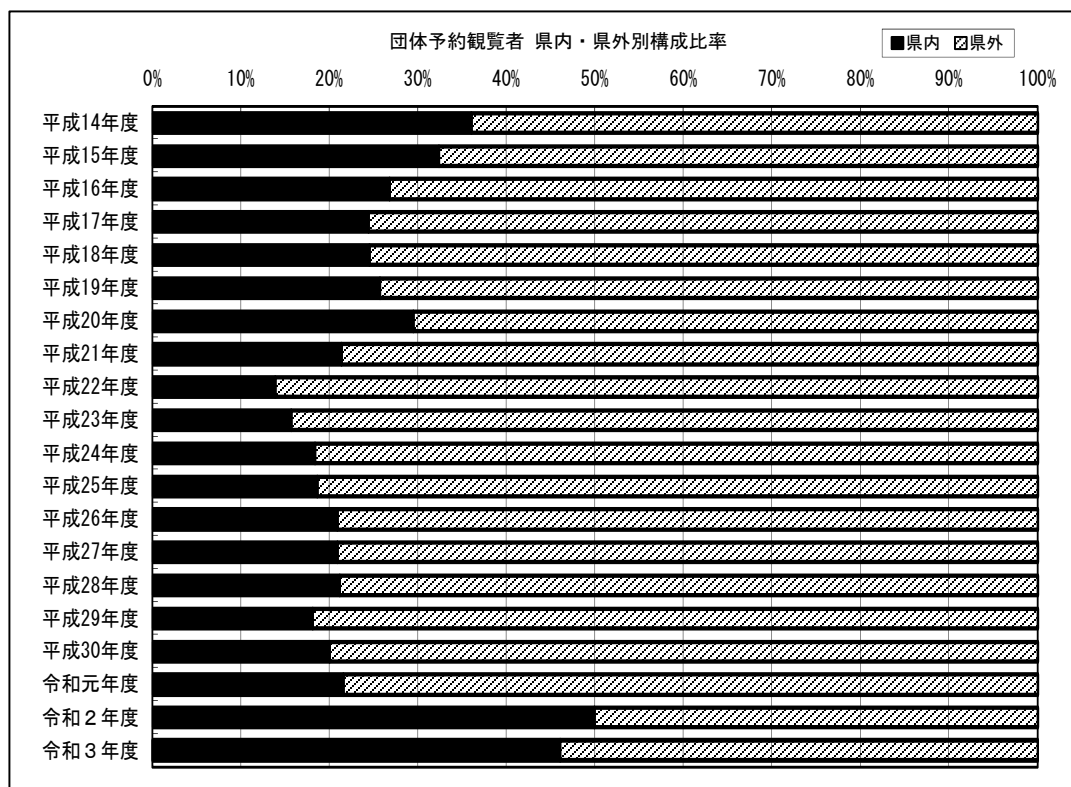
- ・令和3年度は、「団体予約」、「個人」別では、「団体予約」が73.1%となっている。
- ・「大人」、「高校・大学生」、「小・中学生等」別では、「小・中学生等」が50.2%で約半数を占め、「高校・大学生」を含めると全体（団体・個人）の71.5%となっている。

4 団体予約観覧者（有料展示プログラム利用者）の状況

「団体予約観覧者」

※観覧者のうち団体予約による者を指す。（観覧予約申込書を基にして地域ごと、団体種類ごとに集計。）

(1) 県内・県外別



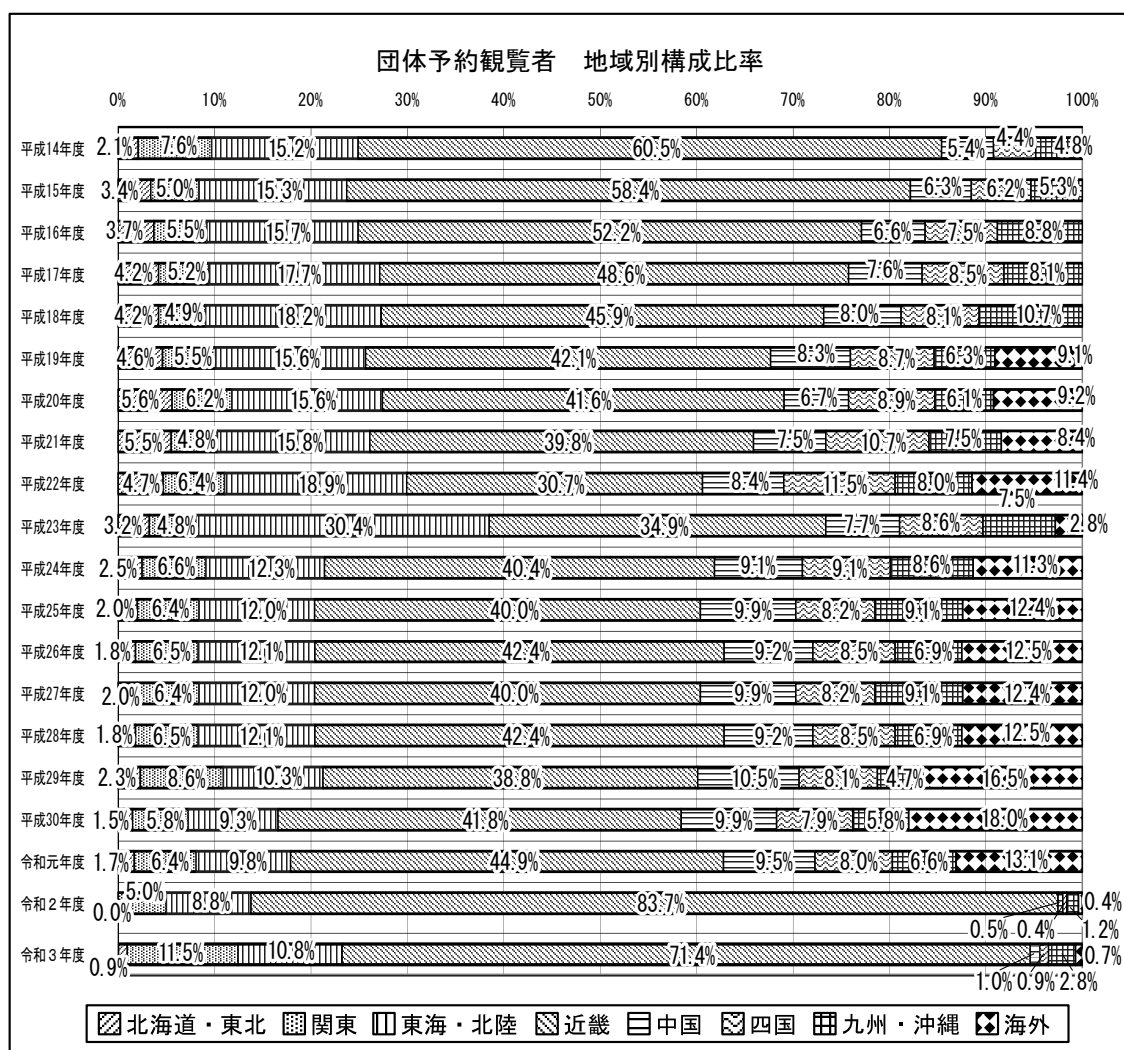
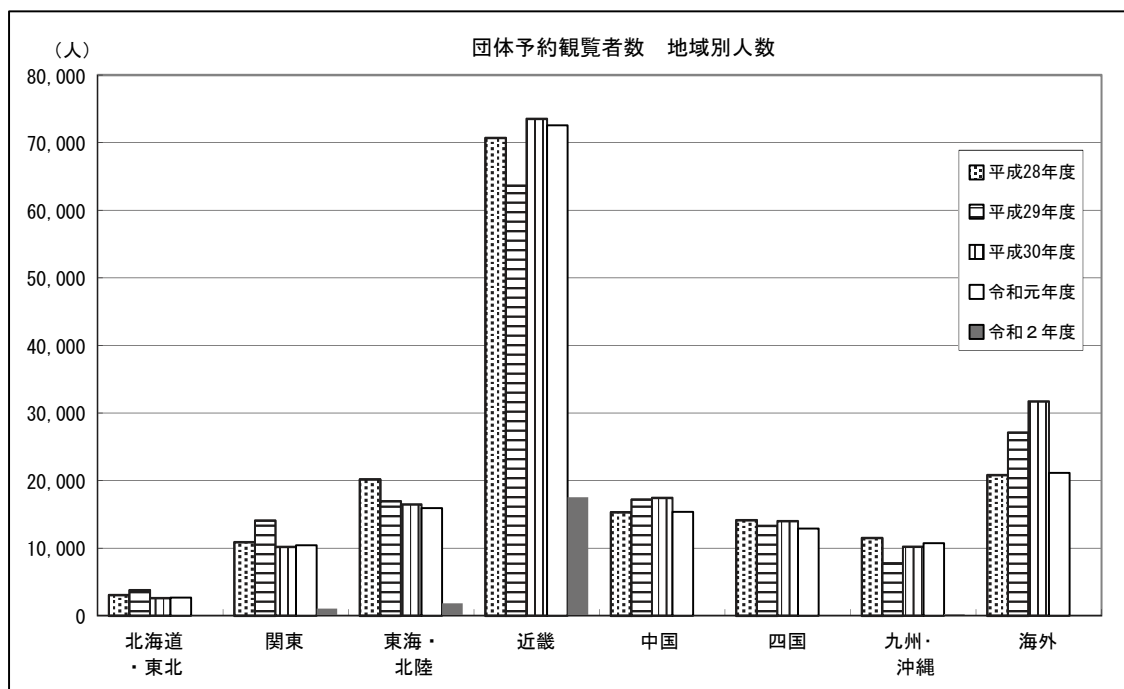
・令和3年度は、「県外」が54.0%となっている。（令和2年度は、「県外」が50.1%となった。）

(単位：人)

区 分	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
県内	53,110	102,424	89,331	81,839	77,537	72,640	72,906	27,367	20,530	37,757	37,429	35,583
構成比	36.0%	32.3%	26.8%	24.4%	24.5%	25.7%	29.5%	21.4%	13.8%	15.7%	18.4%	18.6%
県外	94,405	214,333	244,502	253,728	238,815	210,165	174,483	100,780	127,985	203,353	166,455	155,830
構成比	64.0%	67.7%	73.2%	75.6%	75.5%	74.3%	70.5%	78.6%	86.2%	84.3%	81.6%	81.4%
合計	147,515	316,757	333,833	335,567	316,352	282,805	247,389	128,147	148,515	241,110	203,884	191,413
構成比	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
県内	38,371	38,560	35,221	29,618	35,204	34,866	10,450	20,840
構成比	20.9%	20.8%	21.1%	18.1%	20.0%	21.6%	49.9%	46.0%
県外	145,356	146,422	131,358	134,182	140,853	126,870	10,492	24,427
構成比	79.1%	79.2%	78.9%	81.9%	80.0%	78.4%	50.1%	54.0%
合計	183,727	184,982	166,579	163,800	176,057	161,736	20,942	45,267
構成比	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(2) 地域（ブロック）別



(上段：人数)
(下段：構成比率)

区 分	北海道・東北	関東	東海・北陸	近畿	中国	四国	九州・沖縄	海外	計
平成14年度	3,139 2.1%	11,153 7.6%	22,462 15.2%	89,275 60.5%	7,970 5.4%	6,477 4.4%	7,039 4.8%	—	147,515 100.0%
平成15年度	10,917 3.4%	15,740 5.0%	48,530 15.3%	184,974 58.4%	20,017 6.3%	19,741 6.2%	16,838 5.3%	—	316,757 100.0%
平成16年度	12,185 3.7%	18,322 5.5%	52,312 15.7%	174,333 52.2%	22,175 6.6%	25,196 7.5%	29,310 8.8%	—	333,833 100.0%
平成17年度	13,949 4.2%	17,551 5.2%	59,368 17.7%	163,183 48.6%	25,597 7.6%	28,617 8.5%	27,302 8.1%	—	335,567 100.0%
平成18年度	13,350 4.2%	15,406 4.9%	57,608 18.2%	145,237 45.9%	25,403 8.0%	25,625 8.1%	33,723 10.7%	—	316,352 100.0%
平成19年度	12,895 4.6%	15,568 5.5%	44,059 15.6%	118,946 42.1%	23,422 8.3%	24,536 8.7%	17,768 6.3%	25,611 9.1%	282,805 100.0%
平成20年度	13,906 5.6%	15,332 6.2%	38,636 15.6%	102,705 41.5%	16,464 6.7%	21,982 8.9%	15,042 6.1%	22,823 9.2%	247,389 100.0%
平成21年度	7,030 5.5%	6,097 4.8%	20,185 15.8%	51,184 39.9%	9,576 7.5%	13,774 10.7%	9,581 7.5%	10,720 8.4%	128,147 100.0%
平成22年度	6,951 4.7%	9,475 6.4%	28,019 18.9%	45,590 30.7%	12,493 8.4%	17,150 11.5%	11,854 8.0%	16,983 11.4%	148,515 100.0%
平成23年度	7,780 3.2%	11,661 4.8%	73,382 30.4%	84,186 34.9%	18,452 7.7%	20,838 8.6%	18,068 7.5%	6,743 2.8%	241,110 100.0%
平成24年度	6,288 3.1%	12,784 6.3%	32,363 15.9%	79,159 38.8%	20,144 9.9%	20,850 10.2%	18,965 9.3%	13,331 6.5%	203,884 100.0%
平成25年度	5,108 2.7%	11,669 6.1%	24,234 12.7%	76,636 40.0%	18,793 9.8%	19,418 10.1%	17,562 9.2%	17,993 9.4%	191,413 100.0%
平成26年度	4,654 2.5%	12,211 6.6%	22,624 12.4%	74,317 40.4%	16,803 9.1%	16,657 9.1%	15,725 8.6%	20,736 11.3%	183,727 100.0%
平成27年度	3,710 2.0%	11,865 6.4%	22,241 12.0%	73,978 40.0%	18,270 9.9%	15,163 8.2%	16,742 9.1%	23,013 12.4%	184,982 100.0%
平成28年度	3,052 1.8%	10,883 6.5%	20,171 12.1%	70,695 42.4%	15,322 9.2%	14,141 8.5%	11,506 6.9%	20,809 12.5%	166,579 100.0%
平成29年度	3,771 2.3%	14,086 8.6%	16,953 10.3%	63,634 38.8%	17,201 10.5%	13,300 8.1%	7,751 4.7%	27,104 16.5%	163,800 100.0%
平成30年度	2,596 1.5%	10,170 5.8%	16,455 9.3%	73,515 41.8%	17,432 9.9%	13,986 7.9%	10,206 5.8%	31,697 18.0%	176,057 100.0%
令和元年度	2,679 1.7%	10,422 6.4%	15,929 9.8%	72,570 44.9%	15,363 9.5%	12,889 8.0%	10,744 6.6%	21,140 13.1%	161,736 100.0%
令和2年度	5 0.0%	1,044 5.0%	1,840 8.8%	17,538 83.7%	105 0.5%	90 0.4%	244 1.2%	76 0.4%	20,942 100.0%
令和3年度	422 0.9%	5,222 11.5%	4,877 10.8%	32,314 71.4%	474 1.0%	414 0.9%	1,245 2.8%	299 0.7%	45,267 100.0%

・令和3年度は、「近畿」が32,314人、構成比71.4%で最も多い。

(3) 都道府県別

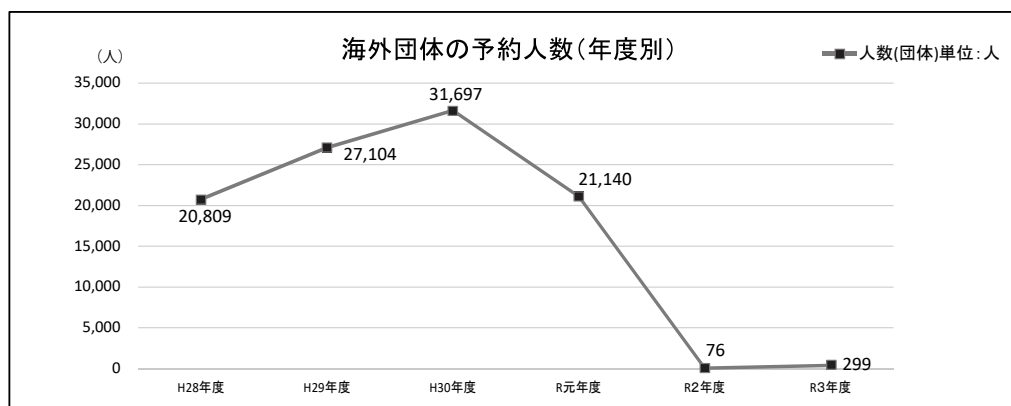
(単位：人)

ランキング	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
平成14年度	兵庫県 53,110	大阪府 19,918	愛知県 7,367	京都府 4,859	滋賀県 4,856	和歌山県 3,753	岐阜県 3,718	岡山県 3,363	三重県 3,345	東京都 3,066
平成15年度	兵庫県 102,424	大阪府 37,164	愛知県 16,458	和歌山県 12,988	滋賀県 12,922	京都府 10,303	三重県 9,259	奈良県 9,173	岡山県 7,820	高知県 7,818
平成16年度	兵庫県 89,331	大阪府 38,219	愛知県 17,441	和歌山県 14,600	京都府 11,871	滋賀県 10,548	岡山県 9,836	奈良県 9,764	高知県 8,920	三重県 8,110

ランキング	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
平成17年度	兵庫県 81,839	大阪府 38,223	愛知県 22,818	和歌山県 14,190	京都府 11,388	岡山県 10,144	奈良県 8,922	高知県 8,748	三重県 8,634	滋賀県 8,621
平成18年度	兵庫県 77,537	大阪府 28,549	愛知県 21,334	和歌山県 10,850	京都府 10,817	岡山県 9,837	三重県 9,557	滋賀県 8,757	岐阜県 7,504	高知県 7,370
平成19年度	兵庫県 72,640	海外 25,611	大阪府 21,861	愛知県 15,526	京都府 9,106	岡山県 8,739	和歌山県 8,512	愛媛県 7,579	三重県 6,844	熊本県 6,646
平成20年度	兵庫県 72,906	海外 22,823	大阪府 22,600	愛知県 14,849	和歌山県 7,718	岡山県 7,229	京都府 6,996	香川県 6,553	愛媛県 6,352	岐阜県 5,556
平成21年度	兵庫県 27,367	大阪府 11,011	海外 10,720	愛知県 7,324	香川県 4,331	和歌山県 3,813	愛媛県 3,807	京都府 3,664	三重県 3,609	岡山県 3,479
平成22年度	兵庫県 20,530	海外 16,983	大阪府 10,829	愛知県 9,712	香川県 5,816	三重県 4,821	和歌山県 4,477	高知県 4,357	京都府 4,323	福岡県 4,181
平成23年度	兵庫県 40,934	愛知県 38,063	大阪府 26,186	三重県 14,815	岐阜県 9,988	岡山県 7,829	香川県 7,558	京都府 6,952	海外 6,743	和歌山県 6,137
平成24年度	兵庫県 37,429	大阪府 21,164	海外 13,331	愛知県 9,832	岡山県 7,774	三重県 6,842	京都府 6,642	熊本県 6,392	福岡県 6,146	高知県 5,924
平成25年度	兵庫県 35,583	大阪府 22,376	海外 17,993	岡山県 7,932	愛知県 6,562	京都府 6,265	高知県 6,184	熊本県 5,774	香川県 5,714	福岡県 5,445
平成26年度	兵庫県 38,371	海外 20,736	大阪府 19,195	岡山県 7,282	愛知県 7,083	高知県 6,186	和歌山県 5,199	京都府 4,785	熊本県 4,638	広島県 4,431
平成27年度	兵庫県 38,560	海外 23,013	大阪府 19,545	愛知県 8,948	岡山県 8,443	京都府 7,430	高知県 5,597	熊本県 5,188	広島県 5,170	和歌山県 4,947
平成28年度	兵庫県 35,221	海外 20,809	大阪府 20,097	愛知県 6,428	岡山県 6,263	京都府 5,682	広島県 4,872	高知県 4,837	福岡県 3,983	和歌山県 3,872
平成29年度	兵庫県 29,618	海外 27,104	大阪府 20,053	岡山県 6,852	京都府 5,594	東京都 5,289	広島県 5,195	愛知県 5,140	高知県 4,763	和歌山県 3,371
平成30年度	兵庫県 35,204	海外 31,697	大阪府 22,193	岡山県 6,840	京都府 5,872	愛知県 5,715	広島県 5,669	高知県 4,897	福岡県 4,864	和歌山県 4,580
令和元年度	兵庫県 34,866	大阪府 22,469	海外 21,140	京都府 6,600	愛知県 6,052	広島県 5,721	福岡県 5,252	岡山県 4,906	高知県 4,711	東京都 3,971
令和2年度	兵庫県 10,450	大阪府 5,222	愛知県 1,567	京都府 736	奈良県 718	滋賀県 381	埼玉県 358	千葉県 264	熊本県 191	神奈川県 188
令和3年度	兵庫県 20,840	大阪府 9,134	愛知県 2,478	千葉県 2,034	東京都 1,484	京都府 1,455	岐阜県 1,116	静岡県 825	福岡県 769	埼玉県 720

・令和3年度は、「兵庫県」が20,840人で第1位、「大阪府」が9,134人で第2位となっている。

(4) 海外（団体予約人数の推移）



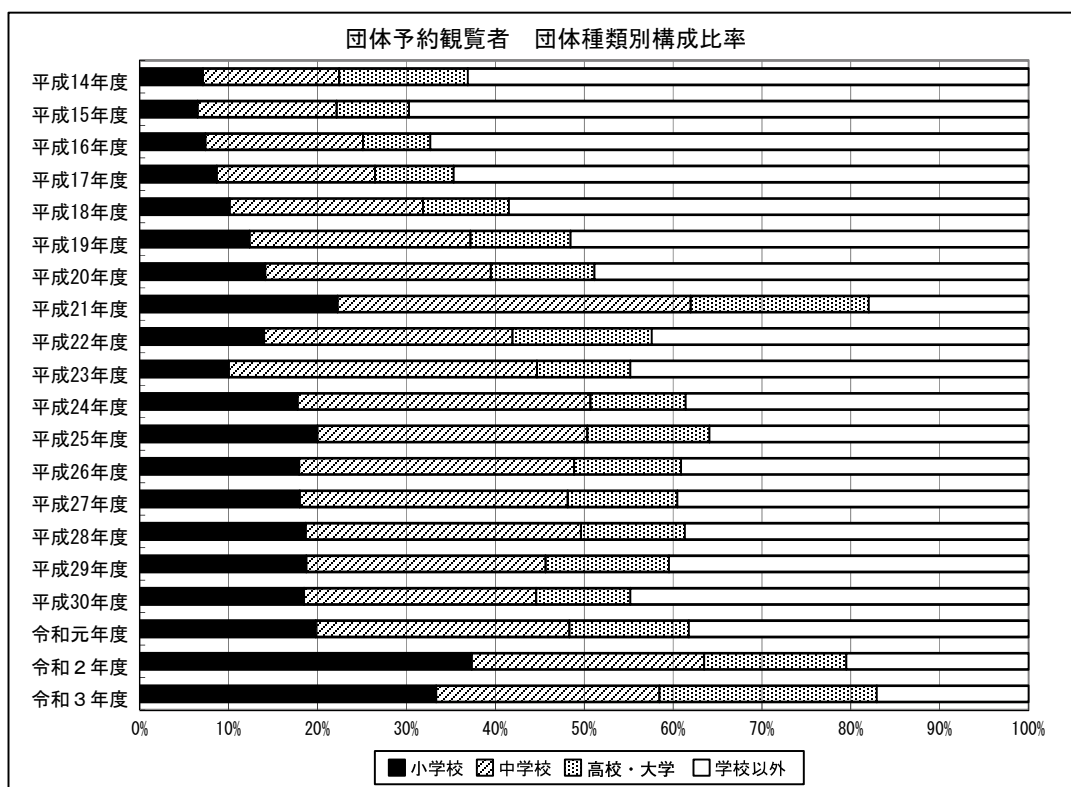
・海外団体の予約人数の国別順位（1位～3位）

国別順位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
1位	ベトナム 7,056	韓国 7,887	ベトナム 8,336	ベトナム 3,847	ベトナム 14	中国 39
2位	韓国 3,780	ベトナム 7,042	韓国 7,034	韓国 3,632	インド 6	ベトナム 15
3位	中国 2,471	マレーシア 2,904	中国 3,199	中国 3,344	－	－
－	その他 7,502	その他 9,271	その他 13,128	その他 10,317	その他 56	その他 245
合計	20,809	27,104	31,697	21,140	76	299

※団体のみ。合計は4位以下の国を含む（単位：人）

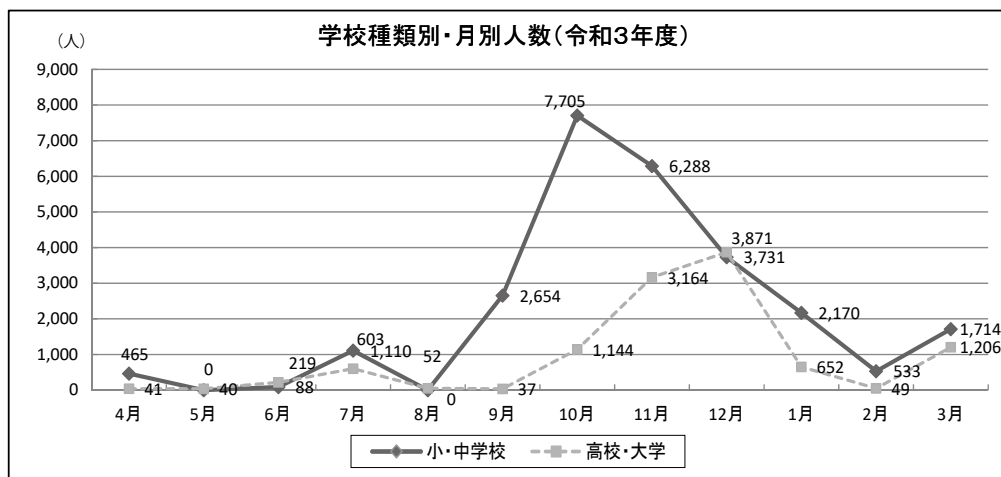
令和2、3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染者が確認された国・地域からの入国制限のため、海外団体の入館者は在日外国人等ごく少数にとどまった。

(5) 団体種類別



(上段：人数)
(下段：構成比率)

区 分	学 校				学校以外	合計
		小学校	中学校	高校・大学		
平成14年度	53,578 36.3%	10,312 7.0%	22,243 15.1%	21,023 14.3%	93,937 63.7%	147,515 100.0%
平成15年度	95,941 30.3%	20,597 6.5%	49,552 15.6%	25,792 8.1%	220,816 69.7%	316,757 100.0%
平成16年度	109,135 32.7%	24,629 7.4%	59,158 17.7%	25,348 7.6%	224,698 67.3%	333,833 100.0%
平成17年度	118,509 35.3%	29,064 8.7%	59,704 17.8%	29,741 8.9%	217,058 64.7%	335,567 100.0%
平成18年度	131,385 41.5%	32,005 10.1%	68,777 21.7%	30,603 9.7%	184,967 58.5%	316,352 100.0%
平成19年度	137,061 48.5%	34,923 12.3%	70,257 24.8%	31,881 11.3%	145,744 51.5%	282,805 100.0%
平成20年度	126,544 51.2%	34,893 14.1%	62,795 25.4%	28,856 11.7%	120,845 48.8%	247,389 100.0%
平成21年度	105,097 82.0%	28,512 22.2%	50,900 39.7%	25,685 20.0%	23,050 18.0%	128,147 100.0%
平成22年度	85,538 57.6%	20,752 14.0%	41,518 28.0%	23,268 15.7%	62,977 42.4%	148,515 100.0%
平成23年度	133,068 55.2%	24,157 10.0%	83,562 34.7%	25,349 10.5%	108,042 44.8%	241,110 100.0%
平成24年度	125,214 61.4%	36,186 17.7%	67,159 32.9%	21,869 10.7%	78,670 38.6%	203,884 100.0%
平成25年度	122,682 64.1%	38,232 20.0%	58,137 30.4%	26,313 13.7%	68,731 35.9%	191,413 100.0%
平成26年度	111,890 60.9%	32,938 17.9%	56,823 30.9%	22,129 12.0%	71,837 39.1%	183,727 100.0%
平成27年度	111,875 60.5%	33,279 18.0%	55,776 30.2%	22,820 12.3%	73,107 39.5%	184,982 100.0%
平成28年度	102,164 61.3%	31,082 18.7%	51,594 31.0%	19,488 11.7%	64,415 38.7%	166,579 100.0%
平成29年度	97,516 59.5%	30,679 18.7%	44,099 26.9%	22,738 13.9%	66,284 40.5%	163,800 100.0%
平成30年度	97,174 55.2%	32,521 18.5%	45,985 26.1%	18,668 10.6%	78,883 44.8%	176,057 100.0%
令和元年度	99,920 61.8%	32,014 19.8%	46,144 28.5%	21,762 13.5%	61,816 38.2%	161,736 100.0%
令和2年度	16,646 79.5%	7,822 37.4%	5,475 26.1%	3,349 16.0%	4,296 20.5%	20,942 100.0%
令和3年度	37,536 82.9%	15,095 33.3%	11,363 25.1%	11,078 24.5%	7,731 17.1%	45,267 100.0%



(単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
小・中学校	465	0	88	1,110	0	2,654	7,705	6,288	3,731	2,170	533	1,714	26,458
高校・大学	41	40	219	603	52	37	1,144	3,164	3,871	652	49	1,206	11,078
合 計	506	40	307	1,713	52	2,691	8,849	9,452	7,602	2,822	582	2,920	37,536

- ・令和3年度は、団体種別では「学校」が82.9%を占め、過去1番の割合となった。
- ・「学校」の中では「小学校」の割合が高いが、例年来館者が多い5月～6月（4月25日～5月11日は臨時休館）は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により特に来館者が減少した。

5 来館者アンケートの概要

来館者の属性、来館動機、施設の評価等を把握するため、アンケート調査を実施した。調査結果の概要は次のとおり。

項 目	内 容
調査対象及び方法	・一般来館者 ・西館2階、東館2階、東館1階にて調査票手渡し自記入及び聞き取り記入 ・回収箱（西館2階、東館2階、東館1階）・郵送・FAXにて回答
実施時期	令和4年1月19日（水）～3月27日（日）
回答状況	・回答数 170件 ・無効数 4件 ・有効回答数 166件（有効回答率：97.6%）

(1) 回答者属性

① 年代別

区 分	標本数	～10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答
回答数	166	30	19	21	22	23	15	29	7
比率（%）	100.0	18.1	11.4	12.6	13.3	13.9	9.0	17.5	4.2

「～10代」の来館者が18.1%で最も多く、次いで「70代以上」の来館者が多かった。

② 性別

区 分	標本数	男性	女性	その他	無回答
回答数	166	82	69	2	13
比率 (%)	100.0	49.4	41.6	1.2	7.8

男女比では、男性の来館者の方が多かった。

③ 居住地別

区 分	標本数	神戸市内	兵庫県内	近畿圏内	その他	無回答
回答数	166	31	42	49	29	15
比率 (%)	100.0	18.7	25.3	29.5	17.5	9.0

※「兵庫県内」：神戸市内を除く

※「近畿圏内」：兵庫県内を除く

④ 職業等別

区 分	標本数	学生	民間就業者	学校教員	公務員 (教員以外)	地域団体等	無職・その他	無回答
回答数	166	43	43	15	7	20	22	16
比率 (%)	100.0	25.9	25.9	9.0	4.2	12.1	13.3	9.6

【学 生】→「小学生」、「中学生」、「高校生」、「大学生・専門学校生」

【民 間 就 業 者】→「自営業」、「会社員（役員含む）」

【学 校 教 員】→「学校教員」

【公務員（教員以外）】→「公務員（教員以外）」

【地 域 団 体 等】→「地域団体」「専業主婦」

【無 職 ・ そ の 他】→「無職」、「その他」

(2) 来館行動

① 同伴者（1つ選択）

区 分	標本数	ひとりで	家族と	友人・知人と	団体で	その他	無回答
回答数	166	24	51	23	60	1	7
比率 (%)	100.0	14.5	30.7	13.9	36.1	0.6	4.2
・年代別							
10代	30	0	11	7	11	0	1
	100.0	0.0	36.7	23.3	36.7	0.0	3.3
20代・30代	40	9	11	10	9	1	0
	100.0	22.5	27.5	25.0	22.5	2.5	0.0
40代・50代	45	9	23	4	9	0	0
	100.0	20.0	51.1	8.9	20.0	0.0	0.0
60代・70歳以上	44	5	6	1	30	0	2
	100.0	11.4	13.6	2.3	68.2	0.0	4.5
無回答	7	1	0	1	1	0	4
	100.0	14.3	0.0	14.3	14.3	0.0	57.1
・性別							
男性	82	19	25	9	27	1	1
	100.0	23.2	30.5	11.0	32.9	1.2	1.2
女性	69	4	23	11	29	0	2
	100.0	5.8	33.3	15.9	42.0	0.0	2.9
その他	2	0	1	1	0	0	0
	15.4	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
無回答	13	1	2	2	4	0	4
	100.0	7.7	15.4	15.4	30.8	0.0	30.8

区 分	標本数	ひとりで	家族と	友人・知人と	団体で	その他	無回答
・ 住所地別							
神戸市内	31 100.0	4 12.9	17 54.8	6 19.4	4 12.9	0 0.0	0 0.0
兵庫県内	42 100.0	3 7.1	12 28.6	7 16.7	19 45.2	1 2.4	0 0.0
近畿圏内	49 100.0	4 8.2	11 22.4	7 14.3	26 53.1	0 0.0	1 2.0
その他の地域	29 100.0	11 37.9	10 34.5	2 6.9	6 20.7	0 0.0	0 0.0
無回答	15 100.0	2 13.3	1 6.7	1 6.7	5 33.3	0 0.0	6 40.0
・ 職業等別							
学生	43 100.0	2 4.7	13 30.2	13 30.2	15 34.9	0 0.0	0 0.0
民間就業者	43 100.0	10 23.3	21 48.8	8 18.6	3 7.0	1 2.3	0 0.0
学校教員	15 100.0	4 26.7	3 20.0	0 0.0	8 53.3	0 0.0	0 0.0
公務員（教員以外）	7 100.0	3 42.9	3 42.9	0 0.0	1 14.3	0 0.0	0 0.0
地域団体等	20 100.0	2 10.0	6 30.0	0 0.0	12 60.0	0 0.0	0 0.0
無職・その他	22 100.0	1 4.5	5 22.7	2 9.1	13 59.1	0 0.0	1 4.5
無回答	16 100.0	2 12.5	0 0.0	0 0.0	8 50.0	0 0.0	6 37.5

全体：「団体で」訪れた来館者が最も多く、次いで「家族と」訪れた来館者が多かった。

年齢：「40代・50代」は「家族と」訪れた来館者が最も多く、「60代・70歳以上」は「団体で」訪れた来館者が最も多かった。次いで「10代」は「家族と」「団体で」、「20代・30代」は「家族と」訪れた来館者が多かった。

住所：「神戸市内」在住の来館者は「家族と」、「兵庫県内」は「団体で」訪れた来館者が最も多かった。「その他の地域」は「ひとりで」が多く、それ以外の来館者は「団体で」訪れた来館者が多かった。

職業：「学生」の来館者は「団体で」、「民間就業者」は「家族と」訪れた来館者が多かった。それ以外は「団体で」訪れた来館者が多かった。

② 観覧予約をしたかどうか（「団体で」回答対象者：1つ選択）

区 分	標本数	はい	いいえ	無回答
回答数	60	48	2	10
比率（％）	100.0	80.0	3.3	16.7

	団体	個人
令和3年度	36.1	63.9
令和2年度	9.6	90.4
令和元年度	22.3	77.7

「団体で」訪れた来館者中、「予約をした」と回答した来館者は約80%で、「予約しなかった」と回答した来館者は、約3%だった。また、今回は「団体」の来館者が約36%で、前回より「団体」の来館者が増加した。

③ 来館回数 (1つ選択)

区 分	標本数	はじめて	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	10回目	10回以上	無回答	平均
回答数	166	103	30	7	3	2	1	0	2	0	0	0	18	1.54
比率 (%)	100.0	62.0	18.1	4.2	1.8	1.2	0.6	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	10.8	

例年同様、「はじめて」の来館者が最も多かった。

区 分	標本数	はじめて	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	10回目	10回以上	無回答	平均
・年代別														
10代	30	19	6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1.37
	100.0	63.3	20.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	
20代・30代	40	31	3	2	1	0	0	0	1	0	0	0	2	1.45
	100.0	77.5	7.5	5.0	2.5	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	5.0	
40代・50代	45	27	10	1	1	1	1	0	1	0	0	0	3	1.74
	100.0	60.0	22.2	2.2	2.2	2.2	2.2	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	6.7	
60代・70歳以上	44	25	10	1	1	1	0	0	0	0	0	0	6	1.50
	100.0	56.8	22.7	2.3	2.3	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	
無回答	7	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2.00
	100.0	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1	
・性別														
男性	82	52	17	3	1	2	0	0	2	0	0	0	5	1.62
	100.0	63.4	20.7	3.7	1.2	2.4	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	6.1	
女性	69	47	11	2	2	0	1	0	0	0	0	0	6	1.41
	100.0	68.1	15.9	2.9	2.9	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.7	
その他	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.00
	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
無回答	13	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1.67
	100.0	23.1	15.4	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	53.8	
・住所地別														
神戸市内	31	17	8	3	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1.72
	100.0	54.8	25.8	9.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	6.5	
兵庫県内	42	24	12	1	2	1	0	0	0	0	0	0	2	1.60
	100.0	57.1	28.6	2.4	4.8	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	
近畿圏内	49	35	6	1	1	0	1	0	1	0	0	0	4	1.51
	100.0	71.4	12.2	2.0	2.0	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	8.2	
その他の地域	29	22	3	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1.39
	100.0	75.9	10.3	6.9	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	
無回答	15	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	1.17
	100.0	33.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	
・職業等別														
学生	43	30	8	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1.34
	100.0	69.8	18.6	7.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7	
民間就業者	43	31	7	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3	1.35
	100.0	72.1	16.3	0.0	2.3	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	
学校教員	15	7	3	2	1	0	1	0	1	0	0	0	0	2.47
	100.0	46.7	20.0	13.3	6.7	0.0	6.7	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
公務員(教員以外)	7	2	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2.83
	100.0	28.6	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	
地域団体等	20	13	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1.39
	100.0	65.0	20.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	
無職・その他	22	14	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1.45
	100.0	63.6	22.7	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	
無回答	16	6	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1.38
	100.0	37.5	6.3	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	

年齢：全世代において「はじめて」の来館者が最も多かった。「40代・50代」の来館者の平均来館回数は、他の世代の来館者に比べて僅かに多かった。

性別：男女ともに「はじめて」の来館者が多かった。平均来館回数は「男性」の方が僅

かに多かった。

住所：全地域において「はじめて」の来館者が最も多かった。「神戸市内」在住の来館者の平均来館回数は、それ以外の地域在住の来館者に比べて僅かに多かった。

職業：職業に関わらず、「はじめて」の来館者が最も多かった。「公務員（教員以外）」の来館者の平均来館回数は、他の職業の来館者に比べて多かった。

④ 交通手段（複数選択）

区 分	標本数	車	タクシー	バス	JR	阪神電車	阪急電車	徒歩	その他	無回答
回答数	166	38	3	51	26	25	9	7	4	7
標本数に占める割合		22.9%	1.8%	30.7%	15.7%	15.1%	5.4%	4.2%	2.4%	4.2%
・ 住所地別										
神戸市内	31	10 32.3%	1 3.2%	3 9.7%	4 12.9%	5 16.1%	3 9.7%	5 16.1%	2 6.5%	0 0.0%
兵庫県内	42	10 23.8%	0 0.0%	18 42.9%	7 16.7%	4 9.5%	3 7.1%	0 0.0%	1 2.4%	0 0.0%
近畿圏内	49	10 20.4%	0 0.0%	25 51.0%	6 12.2%	6 12.2%	2 4.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.0%
その他の地域	29	8 27.6%	2 6.9%	1 3.4%	7 24.1%	7 24.1%	1 3.4%	2 6.9%	1 3.4%	0 0.0%
無回答	15	0 0.0%	0 0.0%	4 26.7%	2 13.3%	3 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 40.0%

前回同様、「バス」での来館が最も多かった。次いで「車」での来館が多かった。

「神戸市内」在住の来館者は、「車」での来館が多かった。「兵庫県内」在住の来館者は、「バス」での来館が多く、次いで「車」での来館が多かった。「近畿圏内」在住の来館者は、「バス」での来館が多かった。「その他の地域」在住の来館者は「車」での来館が多かった。

⑤ 人と防災未来センターを何で知ったか（複数回答）

区 分	標本数	新聞	雑誌	TV・ラジオ	講演会	ホームページ	ポスター・ちらし	学校・先生からの紹介	友人・知人・家族からの紹介（口コミ）	旅行代理店	各種団体から	その他	無回答
回答数	166	11	1	9	9	34	3	25	26	3	8	8	41
標本数に占める割合		6.6%	0.6%	5.4%	5.4%	20.5%	1.8%	15.1%	15.7%	1.8%	4.8%	4.8%	24.7%
10代	30	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 20.0%	0 0.0%	9 30.0%	4 13.3%	0 0.0%	1 3.3%	1 3.3%	9 30.0%
20代・30代	40	2 5.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 22.5%	1 2.5%	10 25.0%	9 22.5%	1 2.5%	1 2.5%	2 5.0%	6 15.0%
40代・50代	45	4 8.9%	1 2.2%	1 2.2%	2 4.4%	14 31.1%	0 0.0%	6 13.3%	10 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	4 8.9%	9 20.0%
60代・70歳以上	44	5 11.4%	0 0.0%	8 18.2%	6 13.6%	4 9.1%	2 4.5%	0 0.0%	3 6.8%	2 4.5%	5 11.4%	1 2.3%	13 29.5%
無回答	7	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	4 57.1%
Q1-3 住所													
神戸市内	31	2 6.5%	0 0.0%	1 3.2%	0 0.0%	4 12.9%	1 3.2%	7 22.6%	4 12.9%	0 0.0%	1 3.2%	2 6.5%	10 32.3%
兵庫県内	42	7 16.7%	0 0.0%	3 7.1%	3 7.1%	9 21.4%	1 2.4%	5 11.9%	6 14.3%	0 0.0%	3 7.1%	2 4.8%	8 19.0%
近畿圏内	49	1 2.0%	1 2.0%	5 10.2%	4 8.2%	8 16.3%	0 0.0%	6 12.2%	8 16.3%	3 6.1%	3 6.1%	1 2.0%	15 30.6%
その他の地域	29	1 3.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.4%	12 41.4%	1 3.4%	5 17.2%	5 17.2%	0 0.0%	0 0.0%	3 10.3%	1 3.4%
無回答	15	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.7%	1 6.7%	0 0.0%	2 13.3%	3 20.0%	0 0.0%	1 6.7%	0 0.0%	7 46.7%

区 分	標本数	新聞	雑誌	TV・ラジオ	講演会	ホームページ	ポスター・ちらし	学校・先生からの紹介	友人・知人・家族からの紹介（口コミ）	旅行代理店	各種団体から	その他	無回答
Q 1-4 職業等													
学生	43	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 23.3%	0 0.0%	13 30.2%	8 18.6%	1 2.3%	2 4.7%	1 2.3%	8 18.6%
民間就業者	43	6 14.0%	1 2.3%	2 4.7%	1 2.3%	17 39.5%	2 4.7%	3 7.0%	9 20.9%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.3%	7 16.3%
学校教員	15	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.7%	3 20.0%	0 0.0%	6 40.0%	2 13.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 13.3%	2 13.3%
公務員 （教員以外）	7	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	2 28.6%	1 14.3%	0 0.0%	2 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%
地域団体等	20	2 10.0%	0 0.0%	2 10.0%	1 5.0%	1 5.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 15.0%	0 0.0%	2 10.0%	1 5.0%	9 45.0%
無職・その他	22	3 13.6%	0 0.0%	3 13.6%	2 9.1%	1 4.5%	1 4.5%	1 4.5%	3 13.6%	2 9.1%	3 13.6%	2 9.1%	4 18.2%
無回答	16	0 0.0%	0 0.0%	1 6.3%	2 12.5%	1 6.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.3%	0 0.0%	1 6.3%	1 6.3%	10 62.5%

全体：「ホームページ」で知ったという回答が最も多く、次いで「友人・知人・家族からの紹介（口コミ）」で知ったという回答が多かった。

年齢：「40代・50代」は「ホームページ」で知ったという回答が最も多く、次いで「友人・知人・家族からの紹介（口コミ）」で知ったという回答が多かった。「20代・30代」は、「学校・先生からの紹介」で知ったという回答が最も多く、次いで「ホームページ」「友人・知人・家族からの紹介（口コミ）」で知ったという回答が多かった。

住所：「神戸市内」在住の来館者は「学校・先生からの紹介」で知ったという回答が最も多かった。「兵庫県内」在住の来館者は「ホームページ」で知ったという回答が多かった。「近畿圏内」在住の来館者は「ホームページ」「友人・知人・家族からの紹介（口コミ）」が多く、「その他の地域」在住の来館者は、「ホームページ」で知ったという回答が多かった。

職業：「学生」の来館者は「学校・先生からの紹介」で知ったという回答が最も多く、次いで「ホームページ」で知ったという回答が多かった。「民間就業者」の来館者は「ホームページ」で知ったという回答が最も多く、次いで「友人・知人・家族からの紹介（口コミ）」で知ったという回答が多かった。「学校教員」の来館者は「学校・先生からの紹介」で知ったという回答が多く、「公務員（教員以外）」の来館者は「講演会」「学校・先生からの紹介」で知ったという回答が多く、「地域団体等」の来館者は「友人・知人・家族からの紹介（口コミ）」で知ったという回答が多く、「無職・その他」の来館者は「新聞」「TV・ラジオ」「各種団体」等で知ったという回答が多かった。

⑥ 来館動機（複数回答）

区 分	標本数	阪神・淡路大震災の状況を知りたくて	防災に関する情報を知りたくて	語り部による被災体験を聞きたくて	博覧研究員による防災セミナーに興味があつて	知人・友人に勧められて	団体旅行に組み込まれていたため	学校行事で	会社・団体の行事で	西館2階企画展を見るために	西館1階企画展「日本大震災10年」を見るために	2021年オープンした東館を見るために	その他	無回答
回答数 標本数に占める割合	166	109 65.7%	88 53.0%	7 4.2%	6 3.6%	21 12.7%	4 2.4%	9 5.4%	8 4.8%	5 3.0%	4 2.4%	3 1.8%	4 2.4%	21 12.7%
・年代別														
10代	30	18 60.0%	11 36.7%	2 6.7%	3 10.0%	8 26.7%	2 6.7%	5 16.7%	1 3.3%	3 10.0%	3 10.0%	1 3.3%	2 6.7%	5 16.7%
20代・30代	40	31 77.5%	28 70.0%	2 5.0%	0 0.0%	6 15.0%	0 0.0%	3 7.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.5%	0 0.0%	1 2.5%
40代・50代	45	33 73.3%	24 53.3%	2 4.4%	1 2.2%	5 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 4.4%	4 8.9%
60代・70歳以上	44	24 54.5%	23 52.3%	1 2.3%	2 4.5%	2 4.5%	2 4.5%	0 0.0%	7 15.9%	1 2.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 15.9%
無回答	7	3 42.9%	2 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	1 14.3%	1 14.3%	1 14.3%	0 0.0%	4 57.1%
・住所地別														
神戸市内	31	24 77.4%	18 58.1%	2 6.5%	1 3.2%	6 19.4%	1 3.2%	5 16.1%	0 0.0%	2 6.5%	3 9.7%	3 9.7%	0 0.0%	3 9.7%
兵庫県内	42	27 64.3%	26 61.9%	2 4.8%	0 0.0%	3 7.1%	1 2.4%	0 0.0%	5 11.9%	2 4.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.4%	3 7.1%
近畿圏内	49	28 57.1%	23 46.9%	1 2.0%	3 6.1%	7 14.3%	1 2.0%	1 2.0%	2 4.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 18.4%
その他の地域	29	22 75.9%	17 58.6%	1 3.4%	0 0.0%	2 6.9%	0 0.0%	1 3.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 10.3%	0 0.0%
無回答	15	8 53.3%	4 26.7%	1 6.7%	2 13.3%	3 20.0%	1 6.7%	2 13.3%	1 6.7%	1 6.7%	1 6.7%	0 0.0%	0 0.0%	6 40.0%
・職業等別														
学生	43	27 62.8%	22 51.2%	3 7.0%	3 7.0%	12 27.9%	2 4.7%	6 14.0%	1 2.3%	4 9.3%	4 9.3%	2 4.7%	2 4.7%	4 9.3%
民間就業者	43	34 79.1%	26 60.5%	1 2.3%	0 0.0%	5 11.6%	0 0.0%	0 0.0%	3 7.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 4.7%
学校教員	15	12 80.0%	10 66.7%	2 13.3%	1 6.7%	1 6.7%	0 0.0%	3 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.7%	0 0.0%	1 6.7%
公務員 (教員以外)	7	6 85.7%	5 71.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
地域団体等	20	9 45.0%	9 45.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 10.0%	1 5.0%	0 0.0%	2 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.0%	4 20.0%
無職・その他	22	14 63.6%	12 54.5%	1 4.5%	2 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 9.1%	1 4.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 13.6%
無回答	16	7 43.8%	4 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.3%	1 6.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.3%	7 43.8%

全体：前回同様、「阪神・淡路大震災の状況を知りたくて」が来館動機として最も多く、次いで「防災に関する情報を知りたくて」の来館動機が多かった。

年齢：全ての年代で「阪神・淡路大震災の状況を知りたくて」が最も多く、次いで「防災に関する情報を知りたくて」が来館動機として多かった。

住所：全ての地域在住の来館者で、「阪神・淡路大震災の状況を知りたくて」が来館動機として最も多く、次いで「防災に関する情報を知りたくて」の来館動機が多かった。

職業：「地域団体等」は、「阪神・淡路大震災の状況を知りたくて」・「防災に関する情報を知りたくて」が同数で、その他の職業は、「阪神・淡路大震災の状況を知りたくて」が最も多く、次いで「防災に関する情報を知りたくて」の来館動機が多かった。

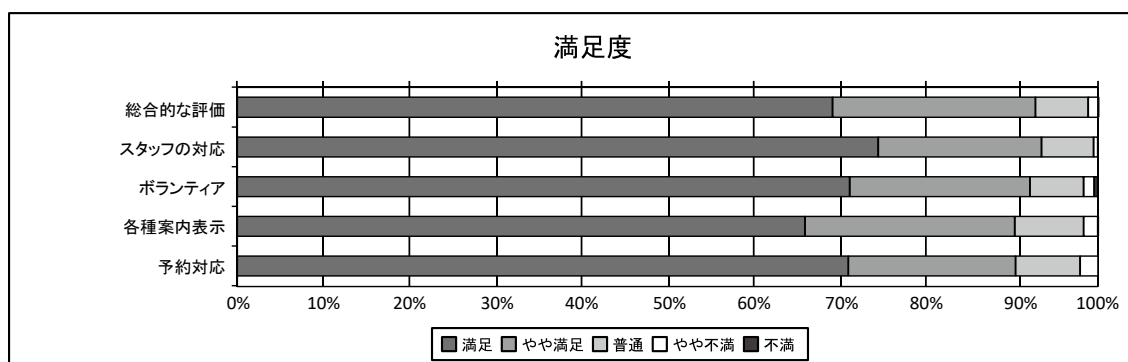
来館動機「その他」回答：

- ・来月の下見
- ・次回民生委員活動で訪問の下見
- ・大学で防災を学んでいるから
- ・高校のレポート提出のため

(3) 満足度（1つ選択）

区 分	有効 標本数	満足 している	やや満足 している	どちらとも いえない	あまり満足 していない	満足 していない	無回答	令和3年度 平均	令和2年度 平均	令和元年度 平均
総合評価	165 100.0	114 69.1	39 23.6	10 6.1	2 1.2	0 0.0	1 -	4.61	4.55	4.48
館内案内スタッフ	164 100.0	122 74.4	31 18.9	10 6.1	1 0.6	0 0.0	2 -	4.67	4.68	4.45
ボランティア 展示解説・説明	163 100.0	116 71.2	34 20.9	10 6.1	2 1.2	1 0.6	3 -	4.61	4.46	4.24
各種案内表示	164 100.0	108 65.9	40 24.4	13 7.9	3 1.8	0 0.0	2 -	4.54	4.54	4.27
予約対応	93 100.0	66 71.0	18 19.4	7 7.5	2 2.2	0 0.0	73 -	4.59	4.59	4.20

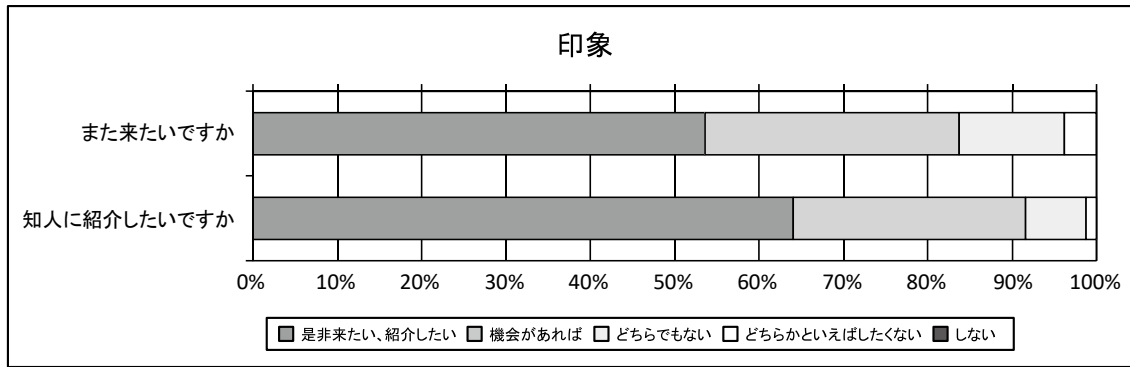
「総合評価」で、「満足している」「やや満足している」の評価をあわせると約9割を占めた。
平均点は「満足している＝5」、「満足していない＝1」として算出



(4) 印象（1つ選択）

区 分	有効 標本数	是非来たい 紹介したい	機会があれば	どちらでも ない	どちらかと いえはしたくない	しない	無回答	令和3年度 平均	令和2年度 平均	令和元年度 平均
また来たいですか	153 100.0	82 53.6	46 30.1	19 12.4	6 3.9	0 0.0	13 -	4.33	4.38	4.28
知人に紹介したいですか	153 100.0	98 64.1	42 27.5	11 7.2	2 1.3	0 0.0	13 -	4.54	4.49	4.41

当館への再訪、知人への紹介について、9割以上の来館者が肯定的な回答をした。
平均点は「満足している＝5」、「満足していない＝1」として算出



I 章 展示

2 節 常設展示の概要

1 項 西館（旧防災未来館）

エントランス、ロビーのほか、阪神・淡路大震災の経験と教訓を伝える「震災追体験フロア」（4階）、「震災の記憶フロア」（3階）及び地震災害を中心に防災・減災について学ぶ「防災・減災体験フロア」（2階）を配置している。

なお、西館展示の3D & VR映像を令和2年11月3日よりホームページで公開している。

【主な経緯】

○平成14年4月27日一般公開開始

○平成19年度

開館後の時間経過に伴う復興過程の新たな情報を追記するとともに、来館者に震災の情報等をより分かりやすく伝える観点から、西館全体にわたり展示改修を検討、実施。

・平成19年10月30日 資料室を2階から5階に移転

・平成20年1月9日 リニューアルオープン



©VR 革新機構

1 エントランス：1階

(1) センター紹介ガイダンス

来館者が効果的に学べるように、センターの設立趣旨や展示のねらいについて、事前ガイダンスを実施している。

(2) 南海トラフ地震の想定津波高表示（館内）

来館者が、南海トラフ地震による津波の被害について、より実感をもって理解し、また、災害に対する備えへの意識を高めることができるように、館内に展示可能な懸垂幕に県庁所在地や政令市等における想定津波高を表示し展示した。（平成28年度設置）

その他、内閣府による南海トラフ巨大地震に係る新たな津波想定を踏まえ、解説パネルを設置している。（平成24年度設置）



2 震災追体験フロア：4階

(1) 震災以前のまち（1.17シアター前室）

震災以前の神戸のまち並みの切り絵を展示し、照明と音響の演出により来館者を震災前夜にタイムスリップさせ、次の1.17シアターから始まる震災追体験に効果的につなげる空間を創出している。



(2) 1.17シアター（「5:46の衝撃」）

平成7（1995）年1月17日午前5時46分、マグニチュード7.3の兵庫県南部地震が発生した。その瞬間、阪神・淡路地域で何が起こったのかを体感できるよう、特殊撮影やコンピューターグラフィックの映像を駆使して、崩壊していくビル、家屋、高速道路、鉄道などの様子を再現している。また、破壊され燃え上がる街の様子を、不定形多面体スクリーンの映像や立体音響システムなどにより、臨場感高く表現している。



（平成28年度に、スクリーン及び全プロジェクターを改修するとともに、入口前に多言語解説看板を設置）

① 映像モチーフ

高度に機能集積した近代都市の脆弱性を明らかにするため、都市基盤崩壊の様相を特徴的に示すモチーフを、映像イメージ、阪神・淡路地区の都市構造・建築・土木構造の分析、被害の概要の視点から選定し提供している。

被害分類	映像構成モチーフ	映像イメージ
住宅地	淡路島旧北淡町住宅群	激しく揺れる木造の住宅群が将棋倒しになる情景 タンスが倒れ天井が崩落する住宅の中を住民の視点で見たカット
商店街	神戸市内商店街	崩れる看板、倒れる自動販売機、 瓦礫と化する商店、商品が崩れ乱れ飛ぶ商店内のカット
都市部	神戸市内高層ビル 神戸市内病院 明石市立天文科学館 港湾の被害	大きく揺れるビル街、オフィスの窓ガラスが飛び散り壁面に走るクラック、飛び散る壁、舞い上がる粉じん、中層階の崩壊する病院、5:46を指したまま止まる時計
交通機関	私鉄電車	金属のきしみとともに正面の波打つ線路 脱線転覆する電車、崩れる高架
	私鉄駅舎	電車が駅舎にめり込み重い衝撃が広がり陥没崩壊する駅舎
	阪神高速道路3号神戸線	うねり始める道路、車がハンドルを取られて蛇行する様子を車を運転する人の視点で見たカット 橋柱に亀裂、折れる橋柱、横倒しになる高速道路
地震火災	神戸市内住宅街	火災発生の状況

② 収容人員 約150人

③ 上映時間 約7分

(3) 震災直後のまち

強烈な地震動により破壊された極限状態のまちをジオラマ模型で再現し、破壊状況に茫然自失となった被災者と同じ状況を体感する。



区 分	イメージ
壊れた医院	建物が傾き今にも倒壊しそうな医院。天井から落下しそうなベッド。天井の床が抜け落ち壁が崩壊
階下が押し潰された鉄筋コンクリートのマンション	夫婦の布団、ベビーベッド、倒れた家具。散乱する台所用品、潰れた階層では家具調度品が押し潰されている
壊れた木造家屋	1階部分が押し潰されて下敷きになった車と2階和室に散乱する家具、生活用品
焼け落ちた市場のアーケード	焼け焦げたアーケードの向こうには、焼け落ちた波トタンや鉄骨、木材等の瓦礫。さらには、その奥に焦土と化した街の遠景写真が広がる
垂れ下がる線路	倒れこむ高架橋、その上には不安定にねじ曲がった線路が宙に浮いている

(4) 大震災ホール（「このまちと生きる」）

地震発生から復旧・復興していくまちの人々の姿の報道実写資料を編集した映像に合わせて、多くの被災者が感じたであろう気持ちや、復興過程の光と影の両面からの事実、教訓について、1人の女性がモノローグにより被災地からのメッセージとして語っていく。

① 収容人員 150人（椅子席）

② 上映時間 約15分

③ 字幕表示

聴覚障害者のためにスクリーン下部に、映像に合わせてナレーションなどを字幕表示している。

④ 発光ダイオード（LED）字幕表示システム

スクリーン右横に取り付けた表示板の電光文字により、映像内容についての事前説明を表示している。

このシステムは、ライオンズクラブ国際協会 335 複合地区及び特定非営利活動法人デフピープルから、人と防災未来センターに寄贈いただいたものである。（平成 18 年 1 月 16 日設置）

⑤ その他 外国語翻訳ガイド機器 110 台（英語・中国語・韓国語・ベトナム語）（平成 25 年度更新、但し、ベトナム語は平成 30 年 3 月 25 日追加）



3 震災の記憶フロア：3階

(1) 被災の状況「震災時の NHK の映像」

震災当日の報道映像を中心に市町ごとの被災の詳細について、被災地の実写映像と地図を重ね合わせ、震度分布や火災等の被災状況の広がりを天井から吊り下げた液晶パネルで、視覚的に伝えている。



(2) まちの変化（定点観測）

同じ場所の被災時と現在を映像で対比し、復興の姿を伝えている。

〈定点観測地点〉

ア 神戸市・三宮 イ 六甲道 ウ 神戸港 エ 大正筋商店街

オ 西宮市・仁川百合野町 カ 明石海峡大橋 キ 生田神社 ク 阪神高速道路

(3) 震災オリエンテーション

① 復興への道

震災直後からの復興過程を5つのシーンに分け、それぞれの時期における人の暮らしとまちなみの象徴的なシーンをジオラマで表現するとともに、体験談映像と運営ボランティアによる解説を加え、復興の全体像をわかりやすく伝えている。なお、平成26年度に、ジオラマをより近くから見ていただけるよう透明カバーを設置した。



<5つのシーン>

時 期	テーマ	まちなみの ジオラマ	人の暮らしの ジオラマ
震災直後	つぶれた家の中から見た被災地「生と死のあいだで」	破壊したまち	倒壊した家屋
2週間後	緊急避難と今後の不安「避難所のつらさとあたたかさ」	ブルーシートのまち	避難所での共同生活
3～6か月後	再建への第一歩「それぞれの再建への動き」	復旧を急ぐまち	応急仮設住宅の新たな生活
1～3年後	復旧と再建の狭間で「まちづくりの理想と現実」	再建が進むまち	それぞれの住宅再建
10年以降	継承することの意味、難しさ「活動し続ける被災地」	復興したまち	ふれあいのある暮らし

(平成28年度に、5つのシーン毎に多言語解説看板を設置)

② 震災の復興過程における課題・震災復興年表

復興過程の主な課題をフェーズ・分野ごとに整理した震災の復興過程における課題と震災復興年表を展示している。なお、平成27年度に年表の見直しや追加を行った。

(4) 震災からの復興をたどる「震災学習テーブル」

震災直後からの復興過程における事象や震災の教訓等について、4つのテーマからなる震災学習テーブルに、各テーマに係る映像、実物資料、グラフィック等をタッチパネル方式で電子ブック化し、展示している。(4か国語対応)

<4つのテーマ>

① 生と死のあいだで

いのちを守る、生と死の岐路、生きていくために、広がる不安、二次災害

② 復旧の苦しみ

避難所の暮らし、復旧への道、応急仮設住宅、助け合い・ボランティア

③ まちとところの復興

生活・福祉復興、産業復興、住宅復興、文化復興

④ 震災から生まれたもの

提言、災害に備える、ボランティア・NPO、伝えたいこと、震災を忘れない



(5) 震災の記憶を残す「記憶の壁」

市民の協力により収集された震災関連資料を資料提供者の体験談とともに展示している。

展示資料は、実物(立体物)、写真、手記等であり、紙資料を被災環境の変化に沿って壁部分に展示、また、実物資料を壁前面に展示している。

(写真：約 500 点、手記：約 260 点、実物資料：約 70 点)

また、各壁面にそのテーマを端的に表す資料をピックアップし、展示している。

- ① 被災：鷹取商店街の看板
 - ② 避難・復旧：ふれあいセンターのベンチと鯉のぼり
 - ③ 復興・語り継ぐ：子供たちの震災新聞
- (平成 28 年度に、コーナー冒頭部分に多言語解説看板を設置)

(6) 震災資料のメッセージ

センター資料室が所蔵する実物資料を、テーマにそって「スポット展示」として順次紹介している（平成 25 年度から実施、実施内容は資料収集・保存の章に記載）。

(7) 文字音声ガイド携帯端末「ハンディガイド」

「記憶の壁」の展示物にまつわる体験談を音声と文字で確認できる携帯端末を貸し出している。（4 か国語対応／新たにタブレット型端末を平成 26 年度 15 台、平成 27 年度 35 台、平成 28 年度 35 台導入）

なお、平成 25 年度に、個人のスマートホン、タブレットで文字音声ガイドを利用できる展示ガイド（Wi-Fi）システムを構築した。

(8) 震災・復興メッセージ

ハンディガイドに収録している体験談をパソコン画面で、座ってゆったりと閲覧、検索することができる。

(9) 語り部コーナー

語り部ボランティアが自らの震災体験を生で語るほか、震災に関わった人々（被災者、医療関係者、消防団員、県警機動隊員等 25 名、ユース震災語り部 27 名）がビデオによる体験談を伝えている。

平成 24 年度には、視聴覚障害者のため、語り部映像に字幕を付加するとともに、「被災体験を語り継ぐ阪神・淡路大震災～ろうあ者の 1.17～」(DVD) のモニターを設置した。

また、平成 28 年度からは、1 月を除く毎月 17 日の無料開館にあわせて語り部ボランティアによる「語り部ワークショップ」を実施している。また、来館者が見学後の感想等を残すことができるメッセージボードを設置している。

さらに令和 3 年度からは、7 言語に翻訳したビデオによる体験談が視聴できるタッチパネル端末を設置している。（7 言語：英語、中国語（簡体・繁体）、韓国語、ベトナム語、インドネシア語、タイ語）



(10) 被災したわがまちの光景～記録写真でたどる阪神・淡路大震災～

資料室収蔵の被災写真（100 枚）を天井から吊り下げた大型液晶パネルで閲覧できるようにしている。（平成 29 年度大型液晶パネル更新）



4 防災・減災体験フロア：2階

(1) 災害の衝撃（ディザスターインパクト）

地震、津波、台風、ハリケーン、竜巻、土砂災害、火山噴火の自然災害を実写映像で見せることにより、災害の脅威を訴え、自然災害への関心を高めるため、2階展示の導入部として設置している。



(2) 地震と自然災害

地震発生に関する世界と日本の状況やさまざまな自然災害に関する理解を深めるデータをパネルで展示（令和元年度新設）



(3) 災害情報ステーション

① ニュースボード（デジタル電子新聞）

被災地から芽生えた活動が、国内外の災害支援等に広がっている様子を事例等により紹介している。

- ア 被災地からの発信
- イ 各種防災関係機関ニュース
- ウ 災害調査レポート

② 未来へ向けた取り組み

国内外の災害の発生状況や教訓等をパネルで紹介している。



(4) 災害検索テーブル「地域の危険度情報」

日本国内の災害危険度等について、各防災関係機関のハザードマップをパソコンで検索することにより、自分の住んでいる地域の危険度や世界の巨大自然災害の発生状況を確認することができる。

(5) ハザードマップ（タッチパネル方式）

来館者自らが触って、確認できるタッチパネル方式によるハザードマップを配置している。



名 称	内 容
河川洪水ハザードマップ及び神戸市地震津波減災マップ	高精細 3D デジタル地図、衛星写真などを組み合わせた県内主要 6 河川のタッチパネル方式の洪水ハザードマップと、神戸市中央区と兵庫区の地震津波減災マップ（株式会社神戸製鋼所寄贈）

(6) 防災教育副読本「明日に生きる」

兵庫県教育委員会が作成した防災教育副読本「明日に生きる」の電子ブック（タッチパネル方式）を 2 基設置している。小学校低学年用、小学校高学年用、中学校用及び高等学校用の 4 種類を選択、閲覧できる。（平成 24 年度設置）



(7) 防災・減災ワークショップ

防災・減災を学ぶ

災害・防災に関する知識を小学生などにも分かり易く、実験やゲームで体験しながら学ぶことができる防災ワゴンや体験キット等がある。

＜防災ワゴン＞

名 称	内 容
自主防災を考える	防災カードで持ち出しリュックを作る
家庭防災を知る	部屋の模型にミニチュア家具を配置し、振動を与える
まちの防災を考える	仮想のまちイラストカードでハザードマップを作る
避難所を考える	小学校を避難所として完成させるパズル
震度の単位を知る	キャラクター人形により、地震のエネルギーの大きさを対比
震度を知る	震度別被害イラストカードによる震度階級カルタ
活断層を知る	活断層ジグソーパズル
活断層を調べる	反射実験鏡を使い、航空写真から活断層を確認する

※平成 26 年度に、防災ワゴンに設置している「めくりシート」を更新

＜体験キット＞

名 称	内 容
防災勝ち抜きゲーム	自然災害に対して自分たちが生き延びることを考えるゲーム
防災すごろく	防災・減災について学ぶすごろく
サバイバル・ファミリー	都市型災害にあった時、家族がどう対応するかを考えるゲーム
神経衰弱ー非常持ち出し品合わせ	家庭の非常持ち出し品を考える神経衰弱ゲーム
防災カルタ	防災・減災の知識を学ぶいろはカルタ
紙芝居	防災・減災紙芝居『奈々ちゃんのひみつ』
防災グッズ体験	実際の防災グッズを自分で使ったり組み立てたりして体験

＜マグニチュードと地震のエネルギー＞

地震のエネルギーは、マグニチュードが 1 増えると約 32 倍、マグニチュードが 2 増えると 1,000 倍になることを球状の模型の大きさと説明している。



＜最前線 防災ノウハウと防災グッズ＞

災害時に必要となる食料、水、日用品等の備蓄物資を展示し、各家庭での備えの実践を呼びかけている。

なお、平成 27 年度、31 年度によりわかりやすい展示となるよう内容の見直しを行った。



＜実験ステージ＞

実験ステージでは、運営ボランティアによる「耐震構造」、「液状化現象」、「家具転倒防止」、「木造耐震木組」の装置を使った実演や映像を活用し、防災・減災に役立つ解説を行っている。



(8) 防災未来ギャラリー

最新の防災トピックスなどを紹介する企画展を開催している。



5 外壁

南海トラフ巨大地震の最大津波高表示

南海トラフ地震の最大津波高の想定 34.4 m（高知県黒潮町）を外壁東面に表示した。（平成 28 年度設置）



6 大型実物資料展示：西館南側

阪神高速道路の損傷橋脚の基部

震災メモリアルとして阪神高速道路神戸線の壊れた橋脚の基部を阪神高速道路株式会社から譲り受け、西館南側に設置し、折れ曲がった内部の鉄筋を見せることで地震の破壊力の凄さを訴えている。（令和元年度に土木学会の「阪神・淡路大震災による被災構造物群」として認定された。）

「神戸の壁」ベンチ

1927 年に建てられた新長田・若松市場の防火壁が阪神・淡路大震災で残り、「神戸の壁」として保存されることとなった。この壁の基礎を造形した一部が「人と防災未来センター」に提供され、これを活用して、ベンチを西館南に設置している。



2項 東館（旧ひと未来館）

楽しみながら最新の防災知識を学んだり、自然災害に備える力を養うことができる「BOSAIサイエンスフィールド」（3階）を始め、東日本大震災からの復旧状況を 3D のドキュメンタリー映像で上映する「こころのシアター」（1階）や、さらに阪神・淡路大震災の経験と教訓を風化させないため「阪神・淡路大震災 106 の教訓」（2階）を展示している。

【主な経緯】

○平成 15 年 4 月 26 日一般公開開始

○平成 21 年度

東館（旧ひと未来館）は、開館以降、癒しやコミュニケーションの空間を中心に、震災の教訓として「いのちの尊さ」、「共に生きることの大切さ」を伝えてきたが、近年、体験型の環境学習機会や学習施設が充実されてきたことに加え、世界的に多発する大規模自然災害への対応が求められていること等から、防災展示を充実させる方向で展示改修を検討、実施。

・平成 21 年 4 月 1 日 ひと未来館としての展示運営を休止

・平成 22 年 1 月 8 日 再オープン

① 新たに風水害を中心とした防災展示（映像）を整備

② 1 階の「こころのシアター」は継続

③ 防災未来館を「西館」、ひと未来館を「東館」と館の名称を変更

○平成 30 年度

以下の展示内容を盛り込む

- ①津波ガイダンス映像の追加（「風水害の脅威」コーナー）
- ②津波避難体験コーナー新設
- ③波高表示バナー及び津波被害エリア空撮マップ
- ④各自治体の津波対策及び防災情報パネル制作

○令和 2 年度

東館 3 階「水と減災について学ぶフロア」全体を「BOSAI サイエンスフィールド」として展示改修するため令和 2 年 7 月 21 日から令和 3 年度のリニューアルオープンまで 3 階を閉鎖した。

○令和 3 年度

6 月 30 日東館 3 階「BOSAI サイエンスフィールド」リニューアルオープン

※当初は 4 月 27 日オープン予定であったが新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言の発出に伴いオープン日を延期した。

1 こころのシアター：1 階

変化していく被災地の現状を、震災直後から今に至る映像と被災者へのインタビューで伝えるオリジナル短編ドキュメンタリー作品である 3D 映像「大津波－3.11 未来への記憶－」を上映している。[収容人員 150 人（椅子席）]

なお、この「大津波」は、新作映像との入れ替えのため令和 4 年 3 月 24 日で上映を終了した。

- ① 制作 NHK メディアテクノロジー
- ② 監督 智片通博
- ③ 語り 役所広司
- ④ 上映時間 約 24 分
- ⑤ その他 同時通訳器 50 台（英語・中国語・韓国語・ベトナム語（平成 30 年度追加））

2 多目的スペース：2 階

兵庫県が「阪神・淡路大震災の復興検証」及び「東日本大震災の復興支援への取り組みの成果」から導いた 106 の教訓をまとめた刊行物「伝える 1.17 は忘れない－阪神・淡路大震災 20 年の教訓－」をダイジェスト・グラフィック化したパネルで掲示（2 階）している。

3 BOSAI サイエンスフィールド：3 階

最新の自然災害現象をその発生のメカニズムを学ぶとともに自然災害に遭遇したときに、自分や大切な人たちの命をまもるため、どのような行動をとれば良いのか、自分で考え、判断し、行動できる力を身に付けることができるフロアとなっている。

(1) ディザスターウォール

地球上で起こる自然現象と人々の生活が交わることで自然災害が発生することを知り、自然災害に対する畏敬の念を持ち自然と共生することを学ぶ。



(2) ジオ&スカイホール

① プレートプッシュ

プレート運動により生じる地震や津波、火山噴火などが発生する事を理解する。

- ② マグニチュードパンチ
ハンマーで叩く強さや位置により、地上での揺れの変化を理解する。
- ③ ウェザーウォーク
自らが高気圧となって台風の進路を誘導していくことで、気象現象が起こる仕組みを学ぶ。
- ④ ウェーブメーカー
津波発生メカニズムや川を遡上する様子を理解する。



プレートプッシュ



マグニチュードパンチ



ウェザーウォーク



ウェーブメーカー

(3) ハザードVRポート

360度広がるVR映像や振動装置、音を用いて、地震、津波、風水害の3つの現場に実際にいるかのような疑似体験をし、その脅威を学ぶ。



(4) ミッションルーム

リアルに再現された住居やコンビニで、自らが状況を判断して避難行動につなげるためのトレーニングを行う。



(5) クエスチョンキューブ

災害時の様々な場面を体験できる映像空間でクイズに答え、命を守る最善の行動力を身につけることができる。

**(6) ディスカバリーラウンジ**

防災・減災に関する最新の知識を学び、今後の取り組みや決意をメッセージとして残すコーナーを設けている。



I 章 展示

3 節 企画展の概要

1 項 令和3年度に実施した企画展等（企画展、イベント、出展・アウトリーチ）一覧

※新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態措置実施期間のため、令和3年4月25日（日）から5月11日（火）まで臨時休館

※大規模修繕工事の関係で、令和4年2月12日（土）から2月13日（日）及び2月19日（土）から2月20日（日）を臨時休館

<企画展>

	開催期間	名 称
1	～ 5月30日（日）	東日本大震災10年伝承ロードミュージアムポスター展
2	～ 6月30日（水）	7つの質問 with コロナ時代の減災を考える
3	6月1日（火）～ 7月18日（日祝）	令和2年度ぼうさい甲子園受賞校活動紹介展
4	7月20日（火）～ 8月15日（日）	綾里 津波のあいだ展 in 神戸
5	7月22日（木祝）～ 8月31日（火）	夏休み防災未来学校2021
6	8月17日（火）～ 8月29日（日）	六甲山の災害展2021
7	9月7日（火）～ 9月26日（日）	全国がまだすドーム巡回展「1991 雲仙普賢岳噴火災害を振り返る」
8	9月22日（水）～ 12月26日（日）	減災グッズ展 vol.8 あんどうりす流セレクション展
9	10月26日（火）～ 12月30日（木）	HATアマビエールちゃん4コマまんが展
10	10月26日（火）～ 12月30日（木）	減災デザイン&プランニング・コンペ2021 成果展示
11	10月30日（土）～ 11月30日（火）	祝オリックス・バファローズ パ・リーグ制覇記念特別展示
12	11月7日（日）～ 11月17日（水）	3.11 伝承ロード震災伝承施設第一分類全件探訪
13	1月8日（土）～ 2月27日（日）	災害メモリアルアクションKOBEO成果展示
14	1月12日（水）～ 3月21日（月祝）	日本災害伝承ミュージアムマップ
15	1月14日（金）～ 3月10日（木）	防災力強化県民運動ポスターコンクール受賞作品展示

<イベント>

	開催期間	名 称
1	6月30日（水）	東館3階リニューアルオープン記念式典及び内覧会
2	8月28日（土）	HAT 減災サマー・フェス2021
3	11月6日（土）	ALL HAT 2021（HAT 神戸の防災訓練）
4	11月26日（金）	来館者900万人達成セレモニー
5	1月30日（日）	イザ！美かえる大キャラバン2022
6	3月20日（日）	災害伝承ミュージアム・フォーラム2022－災害語り継ぎの最前線－
7	11月～ 3月（1月を除く）	無料開館日特別プログラム 語り部ワークショップ

<出展・アウトリーチ>

	開催期間	名 称
1	8月19日（木）～ 8月20日（金）	震災対策技術展大阪
2	10月31日（日）	COMING KOBE 21
3	11月7日（日）	防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）2021
4	1月4日（火）～ 2月22日（火）	県外巡回展示（岩手県）
5	1月8日（土）～ 1月30日（日）	県外巡回展示（東京都）
6	1月12日（水）～ 2月6日（日）	県外巡回展示（石川県）
7	1月15日（土）～ 2月13日（日）	県外巡回展示（長崎県）

2 項 企画展の概要

<企画展>

1 東日本大震災 10 年伝承ロードミュージアムポスター展（～5月30日）

前年度から継続開催。東日本大震災後の被災地に設立された数多くの被災の実情や教訓を学ぶための震災伝承施設遺構や展示施設等のポスターや企画展・イベントのチラシを一同に展示。会場：西館1階ロビー

2 7つの質問 with コロナ時代の減災を考える（～6月30日）

前年度から継続開催。with コロナ時代の課題や新たなアイデアなど7つの質問に対して一般の方々や専門家などからメッセージを収集し、カテゴリーごとに集積するとともに、質問の内容に関連する基本的な情報やコロナ感染症の最新動向などをまとめたミニコラムを展示。会場：西館2階防災未来ギャラリー

3 令和2年度ぼうさい甲子園受賞校活動紹介展（6月1日～7月18日）

令和2年度ぼうさい甲子園受賞校の生徒が作成した活動内容を取りまとめた成果を展示。会場：西館1階ロビー



募集チラシ



会場（西館1階ロビー）

4 綾里 津波のあいだ展 in 神戸（7月20日～8月15日）

東日本大震災 10 年目の節目に、都市・建築史系を中心とした学術グループ「綾里地区研究会」が実施した、明治三陸津波、昭和三陸津波、東日本大震災の三度の津波災害による被害の比較や地域社会・文化への影響等についての研究・活動成果を展示。

会場：西館1階ロビー



会場（西館1階ロビー）



ギャラリートーク（ガイダンスルーム2）

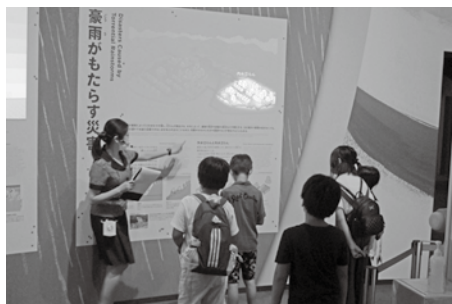
5 夏休み防災未来学校2021 (7月22日～8月31日)

子どもから大人まで楽しみながら、防災・減災について学ぶことができる各種プログラムを、会場参加型、オンライン参加型、ハイブリッド型等多様な形で開催。

会場：西館1階ガイダンスルーム、西館2階防災未来ギャラリー



チラシ



BOSAIサイエンスフィールド スペシャルツアー

東館3F「BOSAIサイエンスフィールド」スペシャルツアー

A 7/22, 8/3-9-19-25
水 木 金 土 日 月 火 水 木
①10:15 ②13:15
風水害の避難対策を学ぼう!

B 7/23, 8/4-11-20-31
金 土 日 月 火 水 木 金 土 日
①11:05 ②13:05
地震と津波からの避難対策を学ぼう!

この夏、リニューアルオープンした東館3F「BOSAIサイエンスフィールド」に、災害時の生き残るための科学的知識を学ぶさまざまな企画をご用意。『風水害』『地震と津波』からの避難対策を学ぶだけでなく、防災グッズで、VTRやリアルシミュレーションなどを体験していただきます。

所要 各約60分
東館3F(2階)に集合(南館2階への移動)
対象 小学4～6年生(保護者1名同伴可)
定員 各回 60名

開催日	申込/申込	抽選結果発表
7/22-23	7/22 → 7/18	
8/3-4	7/22 → 7/24	
8/9-11	7/25 → 7/27	
8/19-20	7/31 → 8/2	
8/25-31	8/7 → 8/9	

所要 各約90分
西館1Fガイダンスルーム2
対象 小学4～6年生
(保護者1名同伴可)
定員 各回 10名

7/25 14:00

いっしょに一曲を
生みだそう!

みんなで歌づくり?
メッセージを伝えよう!

by BloomWorks

いっしょに歌を創るという体験は、自分たちの思いや願いを伝えることができる貴重な機会です。また、災害時の防災意識を高めるためのメッセージを伝えようという目的で、オリジナルの楽曲を1つ、作り上げます。

所要 約120分
西館1Fガイダンスルーム1
対象 小学4～6年生(保護者1名同伴可)
定員 10名

7/25 → 抽選結果発表 7/19

F 7/29-30 ①10:30 ②14:00

光と電気を知って、
LED防災ランタンをつくろう!

災害時の備えとして必要となるライト。簡単なLEDライトの制作と、防災意識を高めながら、手作りの防災ランタンをつくってみよう!

所要 各 60分
西館2階防災未来ギャラリー(無料ゾーン)
対象 小学4～6年生と保護者のペア
定員 各回 60名

7/29 → 抽選結果発表 7/20

E 7/27-28 ①10:30 ②14:00

なんでもつかる?
ロボットハンドを
つくってみよう!

災害から災害時までさまざまな場面で活躍するロボット。自由に動かせるロボットハンド。ロボットハンドに、災害時のために必要な作業をやらせよう!

所要 各 60分
西館2階防災未来ギャラリー(無料ゾーン)
対象 小学4～6年生と保護者のペア
定員 各回 60名

7/27 → 抽選結果発表 7/20

G 7/31, 8/1 ①10:30 ②14:00

ペットボトル地震計をつくろう!

震動が伝わるペットボトル地震計。地震計は地震の揺れをどうやって記録するの? 原理を学びながら本物と同じ仕掛けの地震計を工作しよう!

所要 各 90分
西館1Fガイダンスルーム1
対象 小学4～6年生と保護者のペア
定員 各回 60名

7/31 → 抽選結果発表 7/24

H 8/5 14:00

キミはようかい?
みたことあるかい?

防災妖怪ウォッチ

妖怪ウォッチは、災害時に役立つ知識やスキルを身につけるためのツール。妖怪ウォッチの妖怪たちと一緒に、防災意識を高めよう!

所要 約120分
西館1Fガイダンスルーム1
対象 小学4～6年生と保護者のペア
定員 10名

7/22 → 抽選結果発表 7/24

I 8/8-9 ①10:30 ②14:00

地震の周期を学ぶ
ゆらゆら3兄弟をつくろう!

ゆらゆら3兄弟は、地震の周期を学ぶためのツール。ゆらゆら3兄弟と一緒に、地震の周期を学ぼう!

所要 各 60分
西館2階防災未来ギャラリー(無料ゾーン)
対象 小学4～6年生と保護者のペア
定員 各回 60名

7/25 → 抽選結果発表 7/27

J 8/12-13 14:00

遊んで学ぼう!
ロボットボールで
防災プログラミング!

災害が起きたら、みんなが助かるために、どのような行動をとるのか。防災意識を高め、ロボットボールで防災プログラミングを学ぼう!

所要 各 90分
西館1Fガイダンスルーム1
対象 小学4～6年生と保護者のペア
定員 各回 60名

7/25 → 抽選結果発表 7/25

K 8/15-17 ①10:30 ②14:00

ローワークで
ミサガワをつくろう!

災害時のために必要となるミサガワ。ミサガワの制作と、防災意識を高めよう!

所要 各 60分
西館2階防災未来ギャラリー(無料ゾーン)
対象 小学4～6年生と保護者のペア
定員 各回 60名

7/25 → 抽選結果発表 7/27

M 8/21-22 ①10:30 ②14:00

3D!? 六甲山の立体地図を
作ろう!

六甲山の地形を3Dで再現。六甲山の地形を学ぶためのツール。六甲山の地形を学ぼう!

所要 各 90分
西館1Fガイダンスルーム1
対象 小学4～6年生と保護者のペア
定員 各回 60名

7/31 → 抽選結果発表 8/2

N 8/24 ①10:00 ②14:00

サバイバル!
手作ラジヲに
挑戦しよう!

災害時のために必要となるラジヲ。ラジヲの制作と、防災意識を高めよう!

所要 各 120分
西館1Fガイダンスルーム1
対象 小学4～6年生と保護者のペア
定員 各回 60名

7/31 → 抽選結果発表 8/2

O 8/26-27 ①10:30 ②14:00

絵手紙を描いて
気持ちを伝えよう!

災害時のために必要となる絵手紙。絵手紙の制作と、防災意識を高めよう!

所要 各 90分
西館2階防災未来ギャラリー(無料ゾーン)
対象 小学4～6年生と保護者のペア
定員 各回 60名

7/31 → 抽選結果発表 8/9

P 8/29 14:00

災害対応シミュレーションゲーム
「クロスロード」を
体験しよう! こども編

災害時のために必要となるシミュレーションゲーム。シミュレーションゲームの体験と、防災意識を高めよう!

所要 90分
西館1Fガイダンスルーム1
対象 小学4～6年生と保護者のペア
定員 各回 60名

7/31 → 抽選結果発表 8/9

Q 8/17-25 ①10:30-12:00 ②13:00-15:30

身近なもので
いろいろつくろう!

身近なもので、防災意識を高めるためのツール。身近なもので、防災意識を高めよう!

所要 各 90分
西館1Fガイダンスルーム1
対象 小学4～6年生と保護者のペア
定員 各回 60名

7/31 → 抽選結果発表 8/2

R 8/1-31 (随時参加可)

非常持ち出し袋ゲーム
「BOB for OO」

災害時のために必要となる非常持ち出し袋。非常持ち出し袋の制作と、防災意識を高めよう!

所要 各 90分
西館1Fガイダンスルーム1
対象 小学4～6年生と保護者のペア
定員 各回 60名

7/31 → 抽選結果発表 8/2

S 8/28 Online

HAT「防災サマーフェス2021」
～みんなつながろう!

災害時のために必要となる防災サマーフェス。防災サマーフェスの開催と、防災意識を高めよう!

所要 各 90分
西館1Fガイダンスルーム1
対象 小学4～6年生と保護者のペア
定員 各回 60名

7/31 → 抽選結果発表 8/9

T 7/20-8/15

線江津波のあいた展 in 神戸

線江津波のあいた展。線江津波のあいた展の開催と、防災意識を高めよう!

所要 各 90分
西館1Fガイダンスルーム1
対象 小学4～6年生と保護者のペア
定員 各回 60名

7/31 → 抽選結果発表 8/2

U 8/17-29

会期中の企画展
六甲山の防災展
2021

六甲山の防災展。六甲山の防災展の開催と、防災意識を高めよう!

所要 各 90分
西館1Fガイダンスルーム1
対象 小学4～6年生と保護者のペア
定員 各回 60名

7/31 → 抽選結果発表 8/2

パンフレット

6 六甲山の災害展2021（8月17日～8月29日）

六甲山でこれまで起きた自然災害と、それを防ぐための取り組みをパネルと映像で紹介。会場：西館1階ロビー



会場（西館1階ロビー）



観覧者の様子

7 全国がまだすドーム巡回展「1991 雲仙普賢岳噴火災害を振り返る」

（9月7日～9月26日）

1991年に長崎県島原半島で起きた雲仙普賢岳災害の状況、噴火活動、新活動の過程を実際に被災した資料やパネルで展示。雲仙岳災害記念館（がまだすドーム）が主催の巡回展として開催。会場：西館1階ロビー



チラシ



観覧者の様子

8 減災グッズ展 vol.8 あんどうりす流セレクション展（9月22日～12月26日）

災害時にアウトドアライフのノウハウを活かすことができるという視点から、アウトドア防災ガイドのあんどうりす氏が提唱する、いざという時のために身につけたいスキルや役立つアイテム等を紹介。会場：西館2階防災未来ギャラリー



あんどうりす氏



会場（西館2階防災未来ギャラリー）

9 HATアマビエールちゃん4コマまんが展（10月26日～12月30日）

令和2年度に実施した「HAT減災アマビエを描こう！」コンテストで誕生したキャラクター「アマビエールちゃん」をモデルとした4コマまんが公募作品を展示。

会場：西館1階ロビー



会場（西館1階ロビー）

10 減災デザイン&プランニング・コンペ2021 成果展示（10月26日～12月30日）

一般社団法人芸術工学会主催で実施されている「減災」をテーマとしたデザインプランを紹介。会場：西館1階ロビー



会場（西館1階ロビー）

11 祝オリックス・バファローズ パ・リーグ制覇記念特別展示

（10月30日～11月30日）

オリックス・バファローズの25年ぶりのパ・リーグ優勝を記念して、球団から当センターへ寄贈いただいた、阪神・淡路大震災の起きた1995年にオリックス・ブルーウェーブが優勝した際に使用された「がんばろう KOBE」のワッペンがついたユニフォームや優勝記念品を展示。会場：西館1階ロビー



会場（西館1階ロビー）

12 3.11 伝承ロード震災伝承施設第一分類全件探訪（11月7日～11月17日）

Randonneur Plus Project 主催の東日本大震災の震災遺構（3.11 伝承ロード推進機構が定める震災遺構第一分類）150 件を自転車で訪問するイベントの YouTube 配信をライブ放映。会場：西館1階ロビー

13 災害メモリアルアクションKOB E成果展示（1月8日～2月27日）

災害メモリアルアクション KOB E に参加した学生が行った防災・減災の取り組みの活動報告を展示。会場：西館1階ロビー



会場（西館1階ロビー）

14 日本災害伝承ミュージアムマップ（1月12日～3月21日）

全国の災害伝承ミュージアムの施設情報を手持ちのスマートフォンを使いAR表示で観ることができる大型日本全図マップ等を展示。会場：西館1階ロビー



会場（西館1階ロビー）



AR表示

15 防災力強化県民運動ポスターコンクール受賞作品展示（1月14日～3月10日）

ひょうご安全の日推進県民会議が兵庫県内の小・中学生、高校生を対象に募集した「防災」をテーマとしたポスターの受賞作品を展示。会場：西館1階ロビー



会場（西館1階ロビー）



観覧者の様子

<イベント>

1 東館3階リニューアルオープン記念式典及び内覧会（6月30日）

東館3階「BOSAサイエンスフィールド」のリニューアルオープンを記念して、記念式典及び内覧会を実施。当初4月27日を開催予定としていたが、緊急事態措置による臨時休館のため6月30日に延期。会場：東館2階・3階



記念式典



内覧会

2 HAT減災サマー・フェス2021（8月28日）

例年、地域交流を目的として屋外ひろばに体験ブースを設けて実施しているが、今年は新型コロナウイルスの影響によりオンラインで開催。



センター長挨拶



オンライン配信会場（東館1階こころのシアター）

3 ALL HAT 2021（HAT神戸の防災訓練）（11月6日）

例年、HAT 神戸全体の一体性を高め、安全・安心なまちづくりやにぎわいの創出、コミュニティの醸成、防災意識の向上を図るため、まちづくり協議会や関係機関が連携し、様々な防災イベントで構成する防災訓練を実施していたが、今年は新型コロナウイルスの影響により、参加型プログラムは、シェイクアウト訓練、安否確認トレーニング及び災害時に備えてまちを知るきっかけとするため「HAT神戸まち歩きクイズラリー」を実施。関係機関や協力団体のプログラムについても動画コレクションとしてまとめ、オンラインで配信。



チラシ



オンライン配信会場（西館1階ガイダンスルーム1）



H A T 神戸まち歩きクイズラリー



ラリーゴール（西館 1 階ロビー）

4 来館者900万人達成セレモニー（11月26日）

平成14年4月27日のオープンから6,025日目にあたる11月26日（金）に来館者900万人を達成したため、記念セレモニーを西館1階ロビーで開催。



セレモニー（西館 1 階ロビー）



記念撮影

5 イザ！美かえる大キャラバン2022（1月30日）

例年、JICA関西と当センターを会場として開催する子供達を対象としたワークショップ等を実施する防災イベントを開催しているが、まん延防止等重点措置により会場イベントは中止し、オンラインイベントのみで開催。

6 災害伝承ミュージアム・フォーラム 2022 ―災害語り継ぎの最前線―（3月20日）

災害語り継ぎの研究に携わった研究者がその内容を報告するとともに、災害語り継ぎの重要性や今後の取り組みの方向性などを考える場として開催し、オンラインで配信。



チラシ



オンライン配信



配信会場（西館1階ガイダンスルーム1）

7 無料開館日特別プログラム 語り部ワークショップ（11月～3月（1月を除く））

無料開館日である17日（祝日・振替休日の場合は翌18日）に、より多くの方に被災体験を聞いていただく機会とするため、個人来館者を対象とした語り部ワークショップを西館3階「震災を語り継ぐコーナー」で実施。

＜出展・アウトリーチ＞

1 震災対策技術展大阪（8月19日～8月20日）

グランフロント内コングレコンベンションセンターで開催した展示会へのブース出展。パネル展示、資料配付等を実施。



出展ブース



パネル展示

2 COMING KOBE 21（10月31日）

阪神・淡路大震災を風化させず、若い世代へ震災を考えるきっかけを作るために、神戸で開催される神戸空港島での音楽イベント会場へのブース出展。「振り返る 1995.1.17 阪神・淡路大震災パネル（11枚組）」の展示、資料配布等を実施。また、ひとぼうステージでは、出演アーティストと震災や防災について話すトークショーを実施。



出展ブース



ひとぼうステージ

3 防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）2021（11月7日）

岩手県釜石市で開催する家族連れから専門家まで幅広い方が防災を学ぶことができるぼうさいこくたい2021においてオンラインセッション「災害伝承ミュージアム・セッション vol.3 経験の伝承・次の災害への備え。啓発の新たなチャレンジ」を実施。



プログラム



配信会場（西館1階ガイダンスルーム1）

4 県外巡回展示（岩手県）（1月4日～2月22日）

うのすまい・トモス いのちをつなぐ未来館で「振り返る 1995.1.17 阪神・淡路大震災パネル（11枚組）」の展示、資料配付等を実施。

5 県外巡回展示（東京都）（1月8日～1月30日）

東京臨海広域防災公園 そなエリア東京で「振り返る 1995.1.17 阪神・淡路大震災パネル（11枚組）」の展示、資料配付等を実施。

6 県外巡回展示（石川県）（1月12日～2月6日）

能美市防災センターで「振り返る 1995.1.17 阪神・淡路大震災パネル（11枚組）」の展示、資料配付等を実施。

7 県外巡回展示（長崎県）（1月15日～2月13日）

雲仙岳災害記念館 がまだすドームで「振り返る 1995.1.17 阪神・淡路大震災パネル（11枚組）」の展示、資料配付等を実施。

<誘客活動実績>

小・中・高校生を中心に利用者の年齢、職業、地域等に応じて、きめ細かな広報・集客対策を進めた。

1 県内小・中学生

県内の子どもたちが、学校行事等で一度はセンターを訪れ、大震災について学ぶ機会を確保することを目指して、小・中学校に向けた情報誌への広告掲載を行うとともに、「夏休み防災未来学校 2021」について神戸市内の小学校に広報を行うなど、一層の来館を働きかけた。

2 県外小・中・高校生

教育旅行関係誌への広告掲載等で、集客を促進した。

さらに、視察・下見に訪れた都道府県・市町村議会議員・学校等に対して、修学旅行、研修旅行等でのセンター利用を働きかけた。

3 外国人

コロナ禍により訪日外国人の来館が難しい状況にあるが、関西圏の観光案内所での外国人向けリーフレットの配布を継続して実施した。

4 個人・家族・地域団体等

マスコミへのタイムリーな情報提供や館内での各種企画展・イベントの開催はもとより、全国での巡回展示、震災対策技術展大阪への出展など、学校のほか個人・家族・地域団体、事業所を対象に幅広く広報活動を展開した。

また、阪神・淡路大震災から年月が経過し、記憶の風化が懸念されるなか、より多くの方々が震災の経験と教訓に基づいた防災情報と「減災活動の日」への理解を深めていただくため、昨年に引き続き毎月17日の無料観覧を実施した。

I 章 展示

4 節 運営ボランティアの活動等

人と防災未来センターでは、運営スタッフとして、職員やアテンダントのほか、多数の運営ボランティアが加わっている。

運営ボランティアには、外国語や手話による展示解説を行う「語学」、展示物の説明や簡単な実験などを行う「展示解説」、阪神・淡路大震災の震災体験を語る「語り部」の3種類があり、一日当たり25人程度が活動している。しかし、令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1日あたり18人程度に人数を減らし運営を行った。

また、運営ボランティア有志が中心となって「防災未来サークル」を発足させ、「夏休み防災未来学校」などへ参画している。

1 活動内容

区 分	共通の活動	専門の活動
語 学 (英・中・韓・西)	館内展示に関する来館者への解説、展示体験補助(ワークショップ運営)・誘導整理、ツアーガイド	外国語(英語・中国語・韓国語・スペイン語)、手話による来館者対応(施設案内・展示解説等)
手 話		来館者対応(施設案内、展示解説等)
展示解説		西館3階又は1階ガイダンスルームにおける来館者への「震災体験の語り」
語 り 部		

2 登録状況

運営ボランティアは1年毎の登録制(更新可)としている。令和3年度については、新規登録者を含め139名が登録している。(単位:人)

区 分		登録者数	性 別		年 代 別						
			男	女	～29	～39	～49	～59	～69	～79	80～
語学・手話	英 語	21	12	9	0	0	1	1	4	7	8
	中 国 語	5	1	4	0	0	0	1	2	2	0
	韓 国 語	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0
	ス ペ イ ン 語	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0
	手 話	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0
	語 学 等 計	29	13	16	0	0	1	2	6	12	8
展 示 ・ 解 説		70	49	21	1	1	3	5	15	33	12
語 り 部		40	26	14	0	0	1	4	7	13	15
合 計		139	88	51	1	1	5	11	28	58	35

3 語り部による被災体験談

(1) 語り部による講話(被災体験談)を実施しており、同館1階ガイダンスルームでの講話実施状況は次のとおりである。

西館1階ガイダンスルームでの講話実施状況

区分	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
	回 数	聴講人数	回 数	聴講人数	回 数	聴講人数
4 月	11	379	-	-	44	2,516
5 月	1	14	-	-	113	6,372

区分	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
	回数	聴講人数	回数	聴講人数	回数	聴講人数
6月	7	270	5	102	94	4,776
7月	22	1,086	8	158	63	2,426
8月	3	45	2	62	36	1,312
9月	3	94	26	842	103	5,832
10月	58	3,667	50	2,222	134	7,128
11月	86	5,079	41	2,186	161	8,221
12月	75	4,480	33	1,547	90	5,557
1月	37	2,462	12	831	82	4,435
2月	7	377	3	342	58	2,581
3月	25	1,727	19	938	2	32
計	335	19,680	199	9,230	980	51,188

(2) 毎月17日の入館無料日に、西館3階にて語り部ワークショップを実施しており、実施状況は次のとおりである。

西館3階語り部ワークショップ実施状況

令和3年度		令和2年度		令和元年度	
回数	聴講人数	回数	聴講人数	回数	聴講人数
115	426	45	196	112	1,312

4 研究員による防災セミナー

小、中学生等を対象に、センター研究員による防災セミナーを実施しており、その実施状況は下表のとおりである。

セミナーでは、災害の種類や要因、減災への取り組みについて、研究員の最新の研究成果なども盛り込んだ情報をわかりやすく提供している。

西館1階ガイダンスルームでの防災セミナー実施状況

区分	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
	回数	聴講人数	回数	聴講人数	回数	聴講人数
4月	4	167	-	-	0	0
5月	0	0	-	-	11	631
6月	0	0	0	0	4	292
7月	3	232	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	1	20
9月	0	0	2	74	3	168
10月	6	417	5	215	3	110
11月	5	210	5	259	8	429
12月	2	81	4	242	8	549
1月	1	58	2	153	5	296
2月	0	0	0	0	2	118
3月	3	238	1	60	0	0
計	24	1,403	19	1,003	45	2,613

5 運営ボランティアの研修

例年、運営ボランティアやセンタースタッフ等を対象に、防災などの専門知識の向上や自己研鑽の機会として、研修セミナーを開催しているが、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、新規運営ボランティア研修及び消防訓練に限り実施した。

回	日 時	参加 人数	内 容	講 師
1	R 3. 4. 9 (金) 13:30～16:30	9 人	新規運営ボランティア研修 (本センターの概要、展示内容、見学等) スケジュールに合わせ2回開催	運営課職員
	R 3. 4.10 (土) 13:30～16:30	6 人		
2	R 3.12.20 (月) 9:20～10:30	41 人	消防訓練 ・来館者等の避難誘導や初期消火	

I 章 展示

5 節 VIP 等の視察対応

人と防災未来センターでは、一般観覧者のほか、海外からは中央・地方政府の要人や国際協力機構（JICA）が招聘した途上国の研修員等の視察を、国内からは政府や地方自治体の幹部及び議会議員などの行政視察を積極的に受け入れている。これらの団体には、展示見学に加え、センターの設立趣旨や機能、あるいは阪神・淡路大震災の復興過程等について説明し、センターの取組の発信に努めている。

なお、令和3年度にセンターに視察・研修目的で来訪した団体は、41 団体、366 人であった。こうした視察対応は、新たな団体の来訪、研修への参加等、様々な波及効果を生み出しているものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、例年に比べ大幅に減少した。

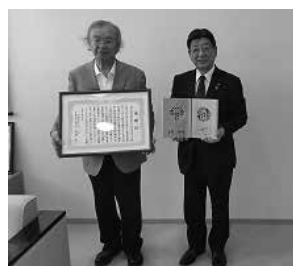
令和3年度 VIP 等の視察対応の実績

区 分	団体数	人数	主な団体等
海外の要人等	3	11	・ 駐日エルサルバドル共和国大使（7/1） ・ 駐日クロアチア共和国大使（2/4）
国関係	4	31	・ 二之湯内閣府特命担当大臣（1/15） ・ 末松文部科学大臣（1/15） ・ 小寺内閣府大臣政務官（1/17）
地方自治体	14	159	・ 芦屋市役所（10/19） ・ 広島県議会（11/25） ・ 福島県相馬港湾建設事務所（12/22）
その他	20	165	・ 産経新聞社（4/23） ・ 毎日放送（7/7） ・ 関西国際大学（7/30） ・ 兵庫県立大学（8/1） ・ 読売新聞社（9/10）
合 計	41	366	

※上記のほか、取材等の目的で来館した報道機関の記者、旅行社等に対して、66 件の広報・宣伝活動を行った。



内閣府特命担当大臣視察



南三陸町長表敬訪問



新聞記者新任研修



駐日クロアチア共和国大使視